

# 【文学部フランス語圏文化学科】

講義コード	講義名	副題	単位	講義期間	担当教員名(代表者のみ)	備考
U360100101	○基礎演習ⅠA		4	通年	鈴木 雅生	週2回
U360100102	○基礎演習ⅠB		4	通年	田上 竜也	週2回
U360100103	○基礎演習ⅠC		4	通年	志々見 剛	週2回
U360101101	○基礎演習ⅡA	フランス語読解と時事フランス語	4	通年	一丸 禎子	週2回
					中条 省平	週2回
U360101102	○基礎演習ⅡB		4	通年	川口 覚子	週2回
					大野 麻奈子	週2回
U360101103	○基礎演習ⅡC		4	通年	前山 悠	週2回
					中山 慎太郎	週2回
U360102101	フランス語演習A	Traduire en français	4	通年	MARE, Thierry	
U360102102	フランス語演習B	Traduire en français	4	通年	MARE, Thierry	
U360102103	フランス語演習C	Traduire en français	4	通年	DARTOIS-AKO Myriam	
U360103101	ゼミナールA	フランス心理小説研究	4	通年	鈴木 雅生	
U360103102	ゼミナールB	文学と建築	4	通年	田上 竜也	
U360103103	ゼミナールC	フランス映画史研究	4	通年	中条 省平	
U360103104	ゼミナールD	Chansons de France	4	通年	MARE, Thierry	
U360103105	ゼミナールE	作家たちの占領下	4	通年	水野 雅司	
U360103106	ゼミナールF		4	通年	大野 麻奈子	
U360103107	ゼミナールG	アグリッパ・ドービニエ研究	4	通年	志々見 剛	
U360104101	卒業論文(フランス語圏文化学科)		12	集中(通年)	田上 竜也	
U360105101	卒業翻訳(フランス語圏文化学科)		12	集中(通年)	田上 竜也	
U360106101	卒業演習A		0	通年	田上 竜也	
U360106102	卒業演習B	フランス暗黒小説読解	0	通年	中条 省平	
U360106103	卒業演習C		0	通年	大野 麻奈子	
U360106104	卒業演習D	『マノン・レスコー』を読む	0	通年	志々見 剛	
U360106105	卒業演習(フランス語圏文化学科)		12	集中(通年)	田上 竜也	
U360200101	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)		4	通年	中尾 和美	
U360201101	フランス語圏文化入門(舞台・映像)		4	通年	大原 宣久	
U360202101	フランス語圏文化入門(広域文化)		4	通年	澁谷 与文	
U360203101	フランス語圏文化入門(文学・思想)	フランス文学の歴史	4	通年	中山 慎太郎	
U360204101	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)		4	通年	寺家村 博	
U360205101	フランス語圏文化講義(舞台・映像)A	フランス映画概説	4	通年	中条 省平	
U360205102	フランス語圏文化講義(舞台・映像)B	芸術ダンスの系譜	4	通年	岡見 さえ	
U360206101	フランス語圏文化講義(広域文化)A	フランスと東アジア、文化関係史	4	通年	菅野 賢治	
U360206102	フランス語圏文化講義(広域文化)B		4	通年	辻川 慶子	
U360207101	フランス語圏文化講義(文学・思想)	20世紀フランス小説の三態	4	通年	三ツ堀 広一郎	
U360208101	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A	旅行記研究	4	通年	志々見 剛	注1)
U360208102	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B		4	通年	横川 晶子	注1)
U3602081Z1	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		4	通年	DELEMAZURE, Raoul	
U3602081Z2	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		4	通年	中尾 和美	
U360209101	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A		4	通年	彦江 智弘	

## 【文学部フランス語圏文化学科】

講義コード	講義名	副題	単位	講義期間	担当教員名(代表者のみ)	備考
U360209102	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B	コルネイユ『ロドギユヌ』を読む	4	通年	畠山 香奈	
U3602091Z1	◇フランス語圏文化演習(舞台・映像)		4	通年	大野 麻奈子	
U360210101	フランス語圏文化演習(広域文化)A	写真を「読む」	4	通年	内藤 真奈	
U360210102	フランス語圏文化演習(広域文化)B	文学の旅 アフリカ・カリブ編	4	通年	中村 隆之	
U360210103	フランス語圏文化演習(広域文化)C	第二次世界大戦後のフランス社会及び文化の大衆化	4	通年	飛嶋 隆信	
U360211101	フランス語圏文化演習(文学・思想)A	ジョルジュ・サンド『アンディヤナ』を読む	4	通年	上杉 誠	
U360211102	フランス語圏文化演習(文学・思想)B	バタイユの思想を読む	4	通年	福島 勲	
U360211103	フランス語圏文化演習(文学・思想)C		4	通年	前山 悠	
U3602111Z1	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)	マルセル・ブルースト研究	4	通年	鈴木 雅生	
U3602111Z2	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)	La poésie de Raymond Queneau	4	通年	MARE, Thierry	
U3602111Z3	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		4	通年	鈴木 啓二	
U360300101	論文指導演習A		2	第1学期	横川 晶子	注2)
U360300102	論文指導演習B		2	第2学期	横川 晶子	注3)
U360302101	文献調査演習	卒業論文を提出しない学生にも開かれた授業	4	通年	CARTON, Martine	
U360303101	フランス語実習A	TCF受験に向けて:基礎から実践へ	4	通年	大野 麻奈子	
U360303102	フランス語実習B		4	通年	一丸 禎子	
U360303103	フランス語実習C	TCF 試験準備実習	4	通年	川口 覚子	

◇印は大学院授業科目であるが、学部の授業科目として履修することができる。

注1)他学科学生が履修した場合、「外国語講読」の単位となる。

注2)主に卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある学生を対象とする。「論文指導演習B」との重複履修は不可。また、平成26年度以前に「論文指導演習(4単位)」の単位を修得した者の履修は認めない。

注3)主に3年次の学生を対象とする。「論文指導演習A」との重複履修は不可。また、平成26年度以前に「論文指導演習(4単位)」の単位を修得した者の履修は認めない。

講義コード	U360100101	科目ナンバリング	036A101
科目名	○基礎演習 I A		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-308.通年 木曜日 2時限 西1-308		

### 授業概要

週2回、1年間でフランス語の基礎を学ぶ。

### 到達目標

フランス語読解のための文法を習得し、基本的なフランス語のテキストを読むことができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文字と発音
第3回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第4回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第5回	Leçon 2 (1): être, avoir、否定文2
第6回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第7回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第8回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第9回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第10回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第11回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第12回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第13回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第14回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第15回	理解度の確認
第16回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第17回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第18回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第19回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第20回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第21回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第22回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第23回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第24回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第25回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第26回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第27回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第28回	補遺: 単純過去、前過去
第29回	補遺: 接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形、自由間接話法
第30回	理解度の確認

### 授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、授業の進度によって変更する可能性があることは言うまでもない。

### 授業方法

文法事項の説明をした後、練習問題をする。また小テストを頻繁に行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業前には指示した個所の問題をやっておくこと。授業後は、その日に学んだ文法事項、単語、表現などを復習し、疑問点があれば次回の授業で質問すること。

### 成績評価の方法・基準

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

テストの答えは返却し、授業内で解説を行う。

### 教科書

グラメール・フランセーズ, 学習院フランス語教育研究会, 朝日出版社, 2018

### 参考文献コメント

辞書、参考書など、教室で指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

予習・復習を欠かさないこと。

講義コード	U360100102	科目ナンバリング	036A101
科目名	○基礎演習 I B		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-314.通年 木曜日 2時限 西1-314		

### 授業概要

週2回、1年間でフランス語の発音と基礎文法を学ぶ。

### 到達目標

フランス語の基礎文法をひとつおろし学び、辞書を使って簡単なテキストが読解できる力を身に着ける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	一般的注意。辞書、参考文献などの指示。アルファベ。発音の基礎
第2回	発音の続き。綴り字の読み方
第3回	教科書の内容に即した文法学習。練習問題
第4回	同上
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	前期のまとめ
第16回	教科書の内容に即した文法学習、練習問題
第17回	同上
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	以下、フランス語の簡単なテキストを読む
第22回	同上
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	後期のまとめ

### 授業計画コメント

授業進度は、学習者の理解度にあわせて調節する

### 授業方法

文法説明を講義形式で行い、宿題や演習は指名して担当してもらう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前に当該箇所を読み、下調べをすること。また必ず復習もすること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	25 %	
学年末試験(第2学期)	25 %	
中間テスト	0 %	
レポート	0 %	
小テスト	25 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	出席、聴講態度重視
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):25%(聴講態度重視) 第2学期(学年末試験):25%(試験の成績による) 第1学期(学期末試験):25%(試験の成績による) 真摯に学習することはもちろんであるが、さらに聴講態度も重視する。居眠り、私語、飲食(ガム、飴含む)、無断退出、メールなどは減点対象となり、はなはだしい場合には単位取得不可とみなす場合もある。小テスト:25%(動詞活用や単語などについて随時行う)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期末試験および小テストは返却する。第2学期末試験は返却しないが、成績に疑問があれば質問に答える。

### 教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018

### 教科書コメント

学習院大学文学部フランス語圏文化学科作成の教科書。授業開始前に指定する。

### 参考文献コメント

辞書など、教室で指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

履修態度も平常点に含む。授業中の飲食(ガム、飴など)、携帯電話、スマートフォン利用、居眠り、私語、途中退出(必要な場合には申告すること)は大きな減点対象となるので注意すること。

講義コード	U360100103	科目ナンバリング	036A101
科目名	○基礎演習 I C		
英文科目名	Practical works on the basic French language, I		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 1年
時間割	通年 火曜日 2時限 西1-210.通年 木曜日 2時限 西1-210		

### 授業概要

フランス語の基礎を学ぶ。

### 到達目標

フランス語の基礎文法を習得し、簡単なフランス語のテキストを読めるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文字と発音
第3回	Leçon 1 (1): 名詞の性・数、冠詞、形容詞、提示表現
第4回	Leçon 1 (2): 人称代名詞1、第一群規則動詞、否定文1
第5回	Leçon 2 (1): être, avoir、否定文2
第6回	Leçon 2 (2): 疑問文、指示形容詞、所有形容詞
第7回	Leçon 3 (1): 第二群規則動詞、縮約、aller、venir
第8回	Leçon 3 (2): 近接未来、近接過去、疑問代名詞1、疑問形容詞、疑問副詞
第9回	Leçon 4 (1): 形容詞・名詞の複数形・女性形、形容詞の位置
第10回	Leçon 4 (2): 比較級・最上級、人称代名詞強勢形
第11回	Leçon 5 (1): 複合過去、関係代名詞1
第12回	Leçon 5 (2): 強調構文、受動態、命令法
第13回	Leçon 6 (1): 人称代名詞の目的補語
第14回	Leçon 6 (2): 準助動詞、指示代名詞、所有代名詞
第15回	理解度の確認
第16回	Leçon 7 (1): 代名動詞
第17回	Leçon 7 (2): 中性代名詞
第18回	Leçon 8 (1): 半過去、大過去、時制の一致1
第19回	Leçon 8 (2): 疑問代名詞2、関係代名詞2
第20回	Leçon 9 (1): 単純未来、前未来
第21回	Leçon 9 (2): 非人称構文、不定代名詞・不定形容詞
第22回	Leçon 10 (1): 条件法現在、条件法過去、時制の一致2
第23回	Leçon 10 (2): 知覚動詞、放任動詞、使役動詞
第24回	Leçon 11 (1): 直接話法と間接話法
第25回	Leçon 11 (2): 現在分詞、ジェロンディフ、感嘆文
第26回	Leçon 12 (1): 接続法現在、接続法過去
第27回	Leçon 12 (2): 接続法の用法
第28回	補遺: 単純過去、前過去
第29回	補遺: 接続法半過去、接続法大過去、条件法過去第2形、自由間接話法
第30回	理解度の確認

### 授業計画コメント

上記の内容は目安であり、授業の進度に応じて多少、変更することがある。

### 授業方法

文法事項の説明と練習問題。随時、小テストを行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業前: 指定した練習問題を行うこと。

授業後: 文法事項や単語などを復習すること。

### 成績評価の方法・基準

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小テスト、期末テストの答案を返却する。必要に応じて授業内で解説を行う。

### 教科書

グラメール・フランセーズ,学習院フランス語教育研究会,朝日出版社,2018

### 参考文献コメント

辞書、参考書などは教室で指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

予習・復習を欠かさないこと。辞書をまめに引くこと。



講義コード	U360101101	科目ナンバリング	036A102
科目名	○基礎演習ⅡA		
副題	フランス語読解と時事フランス語		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	一丸 禎子・中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 月曜日 1時限 西2-305・通年 木曜日 3時限 西2-503		

### 授業概要

すでにフランス語の初級文法と仏文読解の基礎を習得し終えた学生に(基本的に2年生向け)、より高度な仏文読解のテクニックを教え、同時に獲得した文法知識を確かなものとして活用できるようにする。

### 到達目標

フランス語の基本構造を理解すると同時に、単語の語彙を基本2000語程度に広げ、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得し、平易な文献を辞書を用いつつ自力で読解できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明:毎週1回は、仏文読解の演習を行い、毎週もう1つの回では、時事フランス語の演習を行う。
第2回	テキスト読解、時事フランス語演習(1)
第3回	テキスト読解、時事フランス語演習(2)
第4回	テキスト読解、時事フランス語演習(3)
第5回	テキスト読解、時事フランス語演習(4)
第6回	テキスト読解、時事フランス語演習(5)
第7回	テキスト読解、時事フランス語演習(6)
第8回	テキスト読解、時事フランス語演習(7)
第9回	テキスト読解、時事フランス語演習(8)
第10回	テキスト読解、時事フランス語演習(9)
第11回	テキスト読解、時事フランス語演習(10)
第12回	テキスト読解、時事フランス語演習(11)
第13回	テキスト読解、時事フランス語演習(12)
第14回	まとめ
第15回	理解度確認
第16回	テキスト読解、時事フランス語演習(13)
第17回	テキスト読解、時事フランス語演習(14)
第18回	テキスト読解、時事フランス語演習(15)
第19回	テキスト読解、時事フランス語演習(16)
第20回	テキスト読解、時事フランス語演習(17)
第21回	テキスト読解、時事フランス語演習(18)
第22回	テキスト読解、時事フランス語演習(19)
第23回	テキスト読解、時事フランス語演習(20)
第24回	テキスト読解、時事フランス語演習(21)
第25回	テキスト読解、時事フランス語演習(22)
第26回	テキスト読解、時事フランス語演習(23)
第27回	テキスト読解、時事フランス語演習(24)
第28回	テキスト読解、時事フランス語演習(25)
第29回	まとめ
第30回	理解度確認

### 授業方法

かなり高度な仏文テキスト読解の演習を行い、それと並行しつつ、中級文法(特に条件法、話法、接続法、現在分詞、代名動詞等)の解説とそれらの事項に関する問題を行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前に辞書を丹念に引きながら教科書の該当箇所を読んだうえで、練習問題などを行うこと(約1時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):40% 第1学期(学期末試験):40% 小テスト:10% 学期末試験以外の20%は、出席、小テストの結果、授業参加への積極性などを考慮して総合的に採点する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

### 教科書コメント

授業時に指示する。

### 参考文献コメント

必要に応じて授業中に教示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360101102	科目ナンバリング	036A102
科目名	○基礎演習ⅡB		
英文科目名	Practical works on the basic French language, Ⅱ		
担当者名	大野 麻奈子.川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 水曜日 1時限 西1-102.通年 金曜日 5時限 南1-304		

### 授業概要

初級文法をひととおり終えた者を対象とし、中級文法を学びながらより実践的な長文を読むことを目指す授業。  
水曜日は長文読解を、金曜日は文法を中心とした授業を行う。

### 到達目標

フランス語圏の文化についての知識・教養を深めながら、フランス語で書かれた文章を読み解く力をつけること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読・文法演習
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	テキスト訳読・文法演習
第17回	〃
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

### 授業計画コメント

毎回の授業において、なるべく多くの受講者に発言の機会を与える。

### 授業方法

あらかじめ担当部分を伝えられている受講者、またはアトラダムに指名された受講者が問題を解答、または文章を訳す。

### 使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**

教師に渡された問題集またはテキストを予習すること。辞書(できれば紙媒体のもの)をじっくりと参照すること。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

**成績評価コメント**

通年授業なので、1年を通じて力を伸ばしていく努力は評価に値する。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

試験を返却する際には、細かい解説を行う。

**教科書コメント**

教師の指示に従うこと。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360101103	科目ナンバリング	036A102
科目名	○基礎演習ⅡC		
英文科目名	Practical works on the basic French language, II		
担当者名	中山 慎太郎.前山 悠		
単位	4	配当年次	学部 2年
時間割	通年 水曜日 1時限 西2-504.通年 金曜日 5時限 西5-301		

### 授業概要

フランス語の初級文法を習得した学生を対象に、中級文法の習得ならびに読解能力の涵養を目指す。また、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。

### 到達目標

1. フランス語の文法知識を確かなものにする。
2. フランス語の読解能力を高めるとともに、フランス語圏における生活と文化の基礎知識を獲得する。
3. 論文・レポートを作成するうえでの基本的な知識、論理的な文章を書く能力を習得する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	文法演習、テキストの読解
第3回	文法演習、テキストの読解
第4回	文法演習、テキストの読解
第5回	文法演習、テキストの読解
第6回	文法演習、テキストの読解
第7回	文法演習、テキストの読解
第8回	文法演習、テキストの読解
第9回	文法演習、テキストの読解
第10回	文法演習、テキストの読解
第11回	文法演習、論文・レポートの書き方
第12回	文法演習、論文・レポートの書き方
第13回	文法演習、テキストの読解をもとにした論文・レポートの書き方
第14回	文法演習、テキストの読解をもとにした論文・レポートの書き方
第15回	理解度の確認
第16回	文法演習、レポートの講評
第17回	文法演習、テキストの読解
第18回	文法演習、テキストの読解
第19回	文法演習、テキストの読解
第20回	文法演習、テキストの読解
第21回	文法演習、テキストの読解
第22回	文法演習、テキストの読解
第23回	文法演習、テキストの読解
第24回	文法演習、テキストの読解をもとにした論文・レポートの書き方
第25回	文法演習、テキストの読解をもとにした論文・レポートの書き方
第26回	文法演習、テキストの読解
第27回	文法演習、テキストの読解
第28回	文法演習、テキストの読解
第29回	文法演習、テキストの読解
第30回	理解度の確認

### 授業計画コメント

履修者の理解度により計画が変更になる場合もある。

### 授業方法

「文法演習」を前山、「読解」および「論文・レポートの書き方」を中山が担当する。具体的な進め方は初回の授業で指示する。

### 使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**

授業の復習および予習。その他、指定された課題を行う。辞書を丹念にひくこと。(約一時間)

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

**成績評価コメント**

上記の割合はあくまで目安である。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

適宜、コメントや講評を行う。

**教科書コメント**

初回の授業で指示する。

**参考文献コメント**

授業内で適宜指示する。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

**その他**

必ず辞書を持参すること。

講義コード	U360102101	科目ナンバリング	036A103
科目名	フランス語演習A		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 4時限 北1-302		

### 授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

### 到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

### 授業方法

Une importance particulière sera accordée au respect de l'ordre des groupes de mots, qui n'est autre que l'ordre des idées, identique en français et en japonais malgré les différences superficielles de la grammaire.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Comme il est évident (au point de n'avoir pas besoin d'être précisé) les examens sont rendus accompagnés de commentaires.

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。



講義コード	U360102102	科目ナンバリング	036A103
科目名	フランス語演習B		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 3時限 北1-302		

### 授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

### 到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

A l'occasion de ces séances, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

### 授業方法

Une importance particulière sera accordée au respect de l'ordre des groupes de mots, qui n'est autre que l'ordre des idées, identique en français et en japonais malgré les différences superficielles de la grammaire.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira surtout de mesurer le travail et les progrès accomplis par chaque étudiant au cours de l'année.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Comme il est évident (au point de n'avoir pas besoin d'être précisé) les examens sont rendus accompagnés de commentaires.

### 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360102103	科目ナンバリング	036A103
科目名	フランス語演習C		
副題	Traduire en français		
英文科目名	Seminar in the French language		
担当者名	DARTOIS-AKO Myriam		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西1-202		

### 授業概要

Ce cours, entièrement dispensé en français, sera consacré au thème, c'est-à-dire à la traduction d'un morceau de littérature japonaise, extrait de roman ou récit que j'aurai choisi et distribuerai aux étudiants au début de l'année.

### 到達目標

Il s'agira donc de mettre en pratique les acquis des années précédentes en produisant une traduction française correcte et, si possible, élégante d'un texte japonais donné.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	A chaque séance, une dizaine de lignes de japonais seront données à traduire en français.
第2回	Les étudiants ont jusqu'à présent rarement eu l'occasion de travailler sur des textes suivis et ont souvent tendance à opérer phrase par phrase.
第3回	Ce cours est destiné à leur donner l'habitude d'un effort continu dans l'expression en langue française.
第4回	Il en sera ainsi pour toutes les séances jusqu'à la fin de l'année.
第5回	Etc.
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

A l'occasion de ces travaux, je me livrerai à un certain nombre de mises au point grammaticales, lexicales ou stylistiques destinées à faciliter (peut-être !) le travail des élèves.

### 授業方法

Une importance particulière sera accordée au respect de l'ordre des groupes de mots, qui n'est autre que l'ordre des idées, identique en français et en japonais malgré les différences superficielles de la grammaire.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

A chaque cours, les étudiants seront tenus d'apporter une préparation écrite. Il m'arrivera de ramasser certains de ces travaux, que je rendrai dûment corrigés au début de la séance suivante. Par ailleurs certains étudiants seront priés de venir au tableau écrire leur proposition de traduction personnelle, que je commenterai et amenderai, si nécessaire, avant d'indiquer ma propre traduction. Une fois rentrés chez eux, les étudiants devront revoir leurs notes de cours et en vérifier chaque transcription dans un dictionnaire ou un manuel de grammaire, jusqu'à ce qu'ils soient sûrs d'avoir tout compris (ou d'avoir des questions à poser).

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	60 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):10% 第2学期(学年末試験):60% 第1学期(学期末試験):30%

Ces pourcentages n'ont, bien sûr, aucun sens. Il s'agira de mesurer sur toute l'année le travail et les progrès des étudiants.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Comme il est évident (au point de n'avoir pas besoin d'être précisé) les examens sont rendus accompagnés de commentaires.

#### **履修上の注意**

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103101	科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールA		
副題	フランス心理小説研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 西5-301		

### 授業概要

恋愛における男のエゴイズムを冷徹に分析し、近代心理小説の先駆けとも言われるコスタンの『アドルフ』(1806)を読む。

### 到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、その内容を文化的歴史的背景を含めて理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	コスタンおよび『アドルフ』についての解説
第3回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(1)
第4回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(2)
第5回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(3)
第6回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(4)
第7回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(5)
第8回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(6)
第9回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(7)
第10回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(8)
第11回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(9)
第12回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(10)
第13回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(11)
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	後期ガイダンス
第17回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(12)
第18回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(13)
第19回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(14)
第20回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(15)
第21回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(16)
第22回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(17)
第23回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(18)
第24回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(19)
第25回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(20)
第26回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(21)
第27回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(22)
第28回	テキストの訳読、分析・解釈、質疑応答、教師による解説(23)
第29回	まとめ
第30回	自主研究

### 授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自にテキストを分担してもらいながら授業を進める。単なる訳読ではなく、担当した箇所の分析やコメントを求めることになる。担当者の発表を出発点に、全体でディスカッションを行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	夏休みの課題

### 成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

### 教科書

Adolphe, Benjamin Constant, Le Livre de Poche

### 参考文献コメント

授業時に指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103102	科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールB		
副題	文学と建築		
英文科目名	Seminar		
担当者名	田上 竜也		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 西1-303		

### 授業概要

文学や諸芸術と建築とのかかわりを、さまざまなテキストを題材に考察します。

### 到達目標

作家、作品について理解を深めるとともに、文学や建築についての教養を深めます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	テキスト訳読、学生発表
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	テキスト訳読、レポートの書き方指導
第17回	テキスト訳読、学生発表
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	テキスト訳読
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

### 授業計画コメント

テキストは随時コピー配布します。初回の授業で、学生のみなさんと相談のうえ、いくつかの候補から決定します。

### 授業方法

基本的にはテキストに沿って、学生に訳読してもらいます。テキストの正確な読解を基本とし、さらに内容への理解を深めるため、随時関連文献も参照します。また、建築と文学、諸芸術のかかわりについて、順番に各回20分程度の発表をしてもらう予定です。

### 使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**

特に担当箇所は十分準備すること(約2、3時間)。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	50 %	プレゼンテーションおよび配布資料作成
小テスト	0 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	0 %	

**成績評価コメント**

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):50%(出席、訳読、聴講態度) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム含む)、無断退出、メールなどは減点対象となります。レポート:50%(授業内発表のレジュメ)

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

発表についてその都度コメントにより評価する。

**教科書コメント**

コピー配布。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。



講義コード	U360103103	科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールC		
副題	フランス映画史研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 西1-103		

### 授業概要

トーカー以降の映画史の名せりふを集めた『映画の最も名高い台詞の歴史』(ヴィダル&グラセール共編)を題材にして、エスプリにみちたフランス語を読み解く方法を学び、同時に、映画の歴史および20世紀フランスの社会状況や思想について研究する。

### 到達目標

映画の見方を理解し、フランス映画史の概略およびフランス文化史の基礎を把握し、批評および口語に用いられるフランス語の読み方を上達させられるようになる。

### 授業内容

#### 実施回

#### 内容

- | 実施回  | 内容  |
|------|---|
| 第1回  | 映画作家の紹介および作品の内容概説                         |
| 第2回  | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(1)  |
| 第3回  | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(2)  |
| 第4回  | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(3)  |
| 第5回  | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(4)  |
| 第6回  | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(5)  |
| 第7回  | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(6)  |
| 第8回  | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(7)  |
| 第9回  | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(8)  |
| 第10回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(9)  |
| 第11回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(10) |
| 第12回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(11) |
| 第13回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(12) |
| 第14回 | まとめ                                       |
| 第15回 | 到達度確認                                     |
| 第16回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(13) |
| 第17回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(14) |
| 第18回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(15) |
| 第19回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(16) |
| 第20回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(17) |
| 第21回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(18) |
| 第22回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(19) |
| 第23回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(20) |
| 第24回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(21) |
| 第25回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(22) |
| 第26回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(23) |
| 第27回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(24) |
| 第28回 | アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表と、教師のコメント・解説(25) |
| 第29回 | まとめ                                       |
| 第30回 | 到達度確認                                     |

### 授業方法

フランス語読解の訓練をあらゆる面から実践することが授業の根幹となるが、さまざまなテーマに基づく発言を随時義務づけ、成績判断の重要な根拠とする。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

徹底的に辞書を引きながら、また、未知の事項を百科事典、映画事典など適切な事典類を用いて調べながら、原書テキストの5ページほどを読んでおくこと(1時間半)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

### 教科書コメント

詳細は第1回目の授業で指示する。

### 参考文献コメント

Vidal&Glasser :Histoire des plus celebres repliques du cinema (Ramsay)

### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103104	科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールD		
副題	Chansons de France		
英文科目名	Seminar		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 西1-213		

### 授業概要

La chanson passe pour un genre si spécifiquement français qu'on n'utilise pas d'autre mot pour le dire en japonais. Nous essaierons donc, au cours de cette année, de nous plonger dans l'histoire de cette pratique en étudiant à la fois des chansons anciennes, mais toujours vivantes, en particulier dans l'enfance ("A la claire fontaine..." ou "Malbrough s'en va-t-en guerre") et des chansons récentes, aux auteurs attestés, qui les chantent eux-mêmes (Brassens, Barbara, Brel) ou les font chanter à des chanteurs charismatiques (Yves Montand ou Juliette Gréco par exemple).

### 到達目標

Le langage des chansons est extrêmement varié, allant du plus populaire au volontairement littéraire. La forme même de ces petits "poèmes", pour libre et souple qu'elle soit, et tributaire du découpage mélodique, oublie pourtant rarement les principes de la métrique ancienne : c'est à cette multiplicité que je m'efforcerai de prêter attention au cours de mes explications, notamment dans le cours du premier semestre.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Chaque cours aura la même structure : nous écouterons ensemble une chanson dont je distribuerai ensuite le texte, puis je procéderai à une explication littéraire, prenant en compte la prosodie, l'arrière-plan historique et les différents effets de sens.
第2回	Il en sera donc ainsi toutes les semaines.
第3回	Et ainsi de suite.
第4回	Etc.
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業方法

Au moins pendant le premier semestre, il s'agira d'un cours magistral et c'est moi qui procédera aux explications et aux mises au point nécessaire. Avec le second trimestre, cependant, commenceront les exposés.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Avant chaque cours, lire le texte sur lequel nous allons travailler ; si possible le comprendre ; éventuellement y réfléchir.

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	Il s'agira en fait d'exposés oraux.
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

Chaque étudiant devra choisir une chanson, dans une liste que j'aurai préalablement définie et distribuée au début du second semestre. Le jour de l'exposé, il expliquera à ses camarades et à moi-même, en français, le sens et les particularités de cette chanson ainsi que la raison pour laquelle il l'a sélectionnée.

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Il va de soi que, lorsqu'on fait faire un exposé à un étudiant, il est du devoir du professeur de reprendre ce qui a été dit, d'en souligner les points positifs et de corriger les éventuels erreurs. A-t-on jamais vu d'enseignant qui ne le faisait pas ?

### 教科書コメント

Nous procéderons plutôt par audition (grâce aux différents services proposés par Internet, YouTube par exemple) et pourrons même, parfois, transcrire en classe les paroles d'une chanson entendue. Il n'y aura donc pas de manuel à proprement parler. Je distribuerai pendant les cours le matériel nécessaire pour les deux ou trois séances suivantes.

### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103105	科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールE		
副題	作家たちの占領下		
英文科目名	Seminar		
担当者名	水野 雅司		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 中央-504		

### 授業概要

Patrick Modiano の自伝的作品 <i>Un pedigree</i> (Gallimard, 2006) を出発点にして、占領下のフランスをテーマとした作品や当時の状況に関する証言を取り上げ、作家・芸術家・知識人たちが歴史的現実とどのように向き合っていたのか、あるいは向き合おうとしているのかを考察すると同時に、文学・芸術における(歴史と記憶)という問題にも目を向けたい。

### 到達目標

第二次世界大戦下のフランスに関する作品や文献に接することで、歴史的現実とそれに対する人間の表現活動のさまざまなあり方について理解を深め、自分なりの考えを持てるようになること、またそれを自分の言葉でまとめることができるようになることを目標とする。

### 授業内容

実施回	内容
-----	----

第1回	Introduction I : 第一学期の授業の進め方について等
第2回	テキスト訳読と解説
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	Introduction II : 学期末試験の返却と解説、第二学期の授業の進め方、研究発表の準備について等
第17回	テキスト訳読と解説
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	研究発表と討議
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	まとめ
第30回	自主研究

### 授業計画コメント

占領下の生活や風俗を知るために、随時、映像や音声資料なども活用する。

### 授業方法

第1学期と第2学期の前半はフランス語テキストの訳読とそれに対するコメント、第2学期後半は主に学生による研究発表とそれに基づく全員での討議が中心になります。各自の問題意識を明確にするために、第1学期の終わりまでに研究発表のテーマを決め、計画書

を作成し提出してもらいます。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

事前にテキストの該当箇所を読み、疑問点を明確にしておくこと。研究発表のテーマが決定したら、授業と並行して、自主的に関連文献などを読み、各自で準備しておく必要があります。指示された参考文献にも目を通しておくこと。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	レポート等に代える場合もある。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	学年末レポート。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	研究発表。討議への参加度など。
その他(備考欄を参照)	10 %	課題提出など。

## 成績評価コメント

上記はあくまでも目安です。学期末試験、第2学期の研究発表、学年末レポート、課題の成果および授業への参加度等を総合的に判断して評価します。また学期末試験に代えてレポート等の提出物を課す場合があります。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

学期末試験、確認テスト、提出課題等は、採点後に授業内で返却・解説します。

## 教科書

Un Pedegree, Patrick Modiano, Gallimard, Folio, 2006

## 参考文献

ナチ占領下のフランス - 沈黙・抵抗・協力 - : 講談社選書メチエ, 渡辺和行, 講談社, 1994

占領下パリの思想家たち - 収容所と亡命の時代 : 平凡社新書, 桜井哲夫, 平凡社, 2007

## 参考文献コメント

その他、随時授業内で指示します。

## 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360103106	科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールF		
英文科目名	Seminar		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 西2-405		

### 授業概要

サミュエル・ベケットの戯曲『ゴドーを待ちながら』の原作を精読する。あまりにも有名な作品であるが、それだけに映像資料や研究書なども豊富であり、フランス語初級・中級で培った能力を活かしながらフランス語資料も読み解いていく。また、折にふれて受講者それぞれに発表の機会を与える。

### 到達目標

ベケットを通じて、フランスの20世紀演劇を理解する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	サミュエル・ベケットについて
第2回	『ゴドーを待ちながら』抜粋および資料の訳読。
第3回	同上。
第4回	同上。
第5回	同上。
第6回	同上。
第7回	同上。
第8回	同上。
第9回	同上。
第10回	受講者の発表(1～2人)、質疑応答。
第11回	同上。
第12回	同上。
第13回	同上。
第14回	関連作品の抜粋訳読。資料分析。
第15回	第一学期のまとめ。
第16回	関連作品の抜粋訳読。
第17回	同上。
第18回	受講者の発表。質疑応答。
第19回	同上。
第20回	同上。
第21回	同上。
第22回	同上。
第23回	『ゴドーを待ちながら』抜粋および資料の訳読、解説。
第24回	同上。
第25回	同上。
第26回	同上。
第27回	同上。
第28回	同上。
第29回	同上。
第30回	第二学期のまとめ。

### 授業方法

受講者は担当部分を訳読、分析などし、教師がそれに対して補足説明を行う。他の受講者も積極的に授業に参加する(作品や研究書に対して意見を述べるなど)ことを求められる。

### 使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**

教師に指示されたテキストを予習してくる。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	発表

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

レポートはコメントを書き込んでから返却する。

**教科書コメント**

教師の指示に従うこと。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。



講義コード	U360103107	科目ナンバリング	036A800
科目名	ゼミナールG		
副題	アグリッパ・ドービニエ研究		
英文科目名	Seminar		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 3時限 南1-101		

### 授業概要

アグリッパ・ドービニエの『子どもたちへの自伝』、『悲愴曲』などの抜粋を読む。

### 到達目標

辞書などを活用して、フランス語の文章を読み解くことができる。作品の歴史的・文化的な背景を踏まえた上で、内容を理解し、それについて自分の言葉で表現できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	作家・作品の紹介ならびに概要の説明
第2回	同上
第3回	訳読・発表
第4回	同上
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究
第16回	先学期に行ったことの確認と、新学期の概要の説明
第17回	訳読・発表
第18回	同上
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	授業のまとめ
第30回	自主研究

### 授業方法

はじめの数回は、作家・作品およびその背景についての説明を行う。参考文献ならびに必要となる辞書類についてもその時に指示する。それ以降は、事前に担当を決めた上で、訳読・発表をしてもらう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

事前に該当箇所を読むこと。語彙、文法、その他の背景知識についても調べ、疑問点を明確にすること。(約一時間)その他、指示さ

れた参考資料に目を通しておくこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートや発表に対して、適宜、コメントや講評を行う。

### 教科書コメント

授業内で指示します。

### 参考文献コメント

参考文献は授業内で指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

発表の無断欠席と、レポート等での不正には厳正に対処します。

講義コード	U360106101	科目ナンバリング	036A902
科目名	卒業演習A		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	田上 竜也		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 水曜日 3時限 西1-204		

### 授業概要

フランス世紀末文学を代表する作家のひとりヴィリエ・ド・リラダンの傑作短編集『残酷物語』から、数篇選んで読みます。

### 到達目標

作品の正確な読解につとめるとともに、そこにこめられた風刺の意味合いや時代背景について理解を深めます。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	概要説明
第2回	テキスト訳読
第3回	〃
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	〃
第15回	まとめ
第16回	いままでの内容確認
第17回	テキスト訳読
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	〃
第30回	まとめ

### 授業方法

基本的には学生のみなさんにテキストの分担した部分を訳読してもらい形で進め、随時作者や作品についての解説を加えます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各自毎回数ページを読んでくること。とくに指定された箇所は正確な訳を心がけること。

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):60%(出席、聴講態度重視) 聴講態度重視。居眠り、私語、飲食(ガム、飴も含む)、無断退出(必要な場合には必ず申告すること)、メールなどは大きな減点対象となります。第2学期(学年末試験):20%(授業内容の確認) 第1学期(学期末試験):20%(授業内容の確認)

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

前期試験は返却する。後期試験は返却しないが質問には応じる。

#### 教科書

Contes cruels:Collection Folio,Villiers de l'Isle-Adam,Gallimard

#### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360106102	科目ナンバリング	036A902
科目名	卒業演習B		
副題	フランス暗黒小説読解		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	中条 省平		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 月曜日 2時限 西2-405		

### 授業概要

フランスの暗黒小説(探偵小説)の短篇を集めた『犯罪真髓』(ルブラン&メスプレード共編)を題材にして、小説読解の方法を学び、同時に、19~20世紀フランスの政治・社会状況および文学をめぐる思想について研究する。

### 到達目標

近代の探偵小説(ミステリー)の歴史と手法の概略を理解し、そのフランスにおける独自の展開と特性を把握し、フランスで一般的に人気のあるミステリーを原文で読めるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	序説:フランス暗黒小説の歴史
第2回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(1)
第3回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(2)
第4回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(3)
第5回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(4)
第6回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(5)
第7回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(6)
第8回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(7)
第9回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(8)
第10回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(9)
第11回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(10)
第12回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(11)
第13回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(12)
第14回	まとめ
第15回	到達度確認
第16回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(13)
第17回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(14)
第18回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(15)
第19回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(16)
第20回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(17)
第21回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(18)
第22回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(19)
第23回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(20)
第24回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(21)
第25回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(22)
第26回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(23)
第27回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(24)
第28回	アトランダムにあてた学生による担当箇所の読解・発表、教師のコメント・解説(25)
第29回	まとめ
第30回	到達度確認

### 授業方法

フランス語読解の訓練をあらゆる面から実践することが授業の根幹となるが、さまざまなテーマに基づく発言を随時義務づけ、成績判断の重要な根拠とする。

### 使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**

徹底的に辞書を引きながら原書の5ページほどを読んでおくこと(約1時間)。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

**成績評価コメント**

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):30% 第2学期(学年末試験):70%

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

教室で直接説明する。

**教科書コメント**

第1回目の授業時に指示する。

**参考文献コメント**

M. Lebrun & C. Mesplede : La Creme du crime (l'Atalante)

**履修上の注意**

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360106103	科目ナンバリング	036A902
科目名	卒業演習C		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 火曜日 2時限 北1-303		

### 授業概要

4年間の総まとめとして、今までに培って来たフランス語能力を駆使してフランスの現代戯曲を読み説く。

### 到達目標

口語的表現を使いながらも、あくまでも文語表現であるという戯曲の特性を把握し、フランスの戯曲を読み解く力をつける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	作者Jean-Luc Lagarceについて
第2回	作品1の抜粋を訳読、分析。
第3回	同上。
第4回	同上。
第5回	同上。
第6回	同上。
第7回	同上。
第8回	同上。
第9回	同上。
第10回	同上。
第11回	作品2について、概略を説明。関連する映像資料を閲覧、解説。
第12回	映像資料のつづきを閲覧。解説。
第13回	作品2の抜粋を訳読、解説。
第14回	同上。
第15回	第一学期のまとめ。
第16回	作品2の抜粋および批評を訳読、解説。
第17回	同上。
第18回	同上。
第19回	同上。
第20回	同上。
第21回	作品3の抜粋および関連資料の配布。関連映像の閲覧および解説。
第22回	作品3抜粋の訳読、解説。
第23回	同上。
第24回	同上。
第25回	同上。
第26回	同上。
第27回	同上。
第28回	同上。
第29回	同上。
第30回	第二学期のまとめ。

### 授業計画コメント

講義科目ではなく、自ら原作を読み解くことを前提とした演習科目である。

### 授業方法

受講者は、教師があらかじめ(またはその場で)指示した担当部分を音読したうえで訳読、それに対して教師が補足説明をする。戯曲は演じられるため、つまり音読されるために書かれている作品であるので、1年間を通して音読は重視する。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

あらかじめ渡されたテキストは予習すること。また、必ず音読していただくこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	試験の代わりにレポートを課す場合も、評価配分は同じ。
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

上述したように、音読を重視。綴りと発音の関係をきちんと把握すること。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験(またはレポート)を返却する際には具体的な解答例を挙げながら解説を行う。

### 教科書コメント

教師の指示に従うこと。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。



講義コード	U360106104	科目ナンバリング	036A902
科目名	卒業演習D		
副題	『マノン・レスコー』を読む		
英文科目名	Graduation Seminar		
担当者名	志々見 剛		
単位	0	配当年次	学部 4年
時間割	通年 木曜日 3時限 西1-309		

### 授業概要

アベ・プレヴォーの『マノン・レスコー』を取り上げ、精読します。

### 到達目標

作品の文化的・歴史的な背景を踏まえながら内容を理解し、それについて自分の言葉で表現できる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要の説明ならびに作品の紹介
第2回	訳読・発表
第3回	同上
第4回	〃
第5回	〃
第6回	〃
第7回	〃
第8回	〃
第9回	〃
第10回	〃
第11回	〃
第12回	〃
第13回	〃
第14回	授業のまとめ
第15回	自主研究
第16回	訳読・発表
第17回	同上
第18回	〃
第19回	〃
第20回	〃
第21回	〃
第22回	〃
第23回	〃
第24回	〃
第25回	〃
第26回	〃
第27回	〃
第28回	〃
第29回	授業のまとめ
第30回	自主研究

### 授業方法

初回は作品の紹介およびガイダンスを行う。  
担当する学生による訳読・発表ならびに、それについてのディスカッション。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

該当箇所を丹念に読むこと。(約一時間)適宜、指示された参考資料にも目を通すこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

適宜、コメントや講評を行う。

#### 教科書コメント

授業内で指示する。

#### 参考文献コメント

授業内で指示する。

#### 履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

#### その他

発表の無断欠席と、レポート等での不正には厳正に対処します。

講義コード	U360200101	科目ナンバリング	036A201
科目名	フランス語圏文化入門(言語・翻訳)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 西5-302		

### 授業概要

フランス語は系統的にも文法構造上も日本語とは全く異なった言語である。にもかかわらず、ともに「頭(tête)」という語は、「人間の頭、くぎの頭、冒頭」を指すことができる。他方、フランス語には、複合過去、半過去、大過去、単純過去など、日本語には存在しない多くの過去を示す形態がある。この授業では、フランス語を日本語と比較対照させることで、ことばについて考え、言語学の第一歩となるような視点を養うことを目的とする。具体的には、新聞、小説などから実際に収集した例文を観察し、日本語と対照させることで、フランス語の語彙の使い方、またフランス語の人称、時制、法、態などの文法形式がどのように言語外現実を表現しているかを考察する。さらに、フランス語の歴史や21世紀におけるフランス語圏の現状についても考える。

### 到達目標

フランス語がなぜイタリア語やスペイン語と似ているのか理解できるようになる。フランス語の文法(複合過去と半過去の違い、部分冠詞とは?)について、より具体的に理解できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	フランス語圏の国々の現状(1) ヨーロッパ、カナダ、ルイジアナ
第3回	フランス語圏の国々の現状(2) アフリカ、南太平洋、カリブ海
第4回	様々な地域のフランス語
第5回	フランス語の歴史、変遷(1)ストラスブールの誓約
第6回	フランス語の歴史、変遷(2)中世
第7回	フランス語の歴史、変遷(3)近・現代
第8回	フランスにおける様々な地域語と海外領土
第9回	翻訳とは?
第10回	翻訳と借用語
第11回	翻訳の可能性(1)固有名詞の翻訳
第12回	翻訳の可能性(2)言葉遊び
第13回	翻訳の可能性(3)笑い話
第14回	翻訳の可能性(4)なぞなぞ
第15回	予備日
第16回	日仏対照考察(1)レトリック
第17回	日仏対照考察(2)直喩・隠喩
第18回	日仏対照考察(3)換喩
第19回	日仏対照考察(4)意味の拡張・変化(1)
第20回	日仏対照考察(5)意味の拡張・変化(2)
第21回	仏語学的考察(1)名詞の性
第22回	仏語学的考察(2)部分冠詞・不定冠詞
第23回	仏語学的考察(3)定冠詞
第24回	仏語学的考察(4)複合過去と半過去
第25回	仏語学的考察(5)大過去、単純過去、近接過去
第26回	仏語学的考察(6)単純未来と近接未来
第27回	仏語学的考察(7)受動態・代名動詞
第28回	誤用
第29回	新語法
第30回	授業の総括

### 授業方法

具体的な例を見ながら、ことばについて共に考える。積極的に授業に参画することが望まれる。毎回授業の最後に授業の復習を兼ねたコメントカードの提出をもとめる。その際、質問・コメントなどあれば、カードに記入してもらい、学生諸君との意思疎通を図るようにする。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

フランス語の初級文法の教科書を復習しておくことが好ましい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

原則として、第1学期末にレポート提出、学年末に試験を行う予定。また、毎回授業後に行う授業の復習を兼ねたコメントの提出、及び授業への参加、出席などの平常点も成績評価の対象とする。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回のコメントカードに書かれた質問については、次回の授業で答え、フィードバックを行う。

### 教科書コメント

必要に応じてプリントにて配布

### 参考文献

中級フランス語 つたえる文法, 曾我祐典, 白水社, 2011

中級フランス語 あらわす文法, 東郷雄二, 白水社, 2011

Le bon usage, M. Grevisse, Duculot, 2011

フランス語とはどういう言語か, 大橋保夫, 駿河台出版, 1993

翻訳仏文法(上)(下), 鷲見洋一, ちくま学芸文庫, 2003

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

フランス語圏文化学科の2年生、またはフランス語既習の1年生のみ履修可能。他学科の学生は履修不可。フランス語未習の学生は履修を認めない。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360201101	科目ナンバリング	036A202
科目名	フランス語圏文化入門(舞台・映像)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Theater & Films)		
担当者名	大原 宣久		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 金曜日 1時限 西1-101		

### 授業概要

まずは、映画を単なる娯楽としてだけでなく(娯楽的要素を切り捨てる必要はありませんが)、さまざまな要素からなる複合的・総合的な芸術として、学問・研究・批評の対象にもなりうるものであるということを理解してほしいと思います。

そのために、基本的には、フランスを中心とした映画史のおおまかな流れ、映画表現の変遷をたどっていきます。

と同時に、その変遷をよりよく理解するために、フランスにこだわらず、古今の名作を題材に、映画作品にはどのような主題が選ばれ、どのような技法が使われ、どのような要素が盛り込まれているか、そしてそれらはいかにして統合され、どのような意味を作品に与えているか考察する機会を設けます。

そのうえで、最終的には受講者自身が作品を批評し、論じることをめざしていきます。

以上に関しては、実際の授業では概論的な説明のみに頼るのではなく、なるべく実際の映画・映像を見ながら実感・体験していけるようにしたいと考えています。

### 到達目標

- 1、映画史(とくにフランス映画)の変遷をおおまかに理解できるようになる。
- 2、映画の制度的・形式的側面について学び、映画を分析的に見ることができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	映画誕生——リュミエール兄弟～ジョルジュ・メリエス
第3回	アベル・ガンズ
第4回	ルネ・クレール
第5回	ジュリアン・デュヴィヴィエ
第6回	マルセル・カルネ
第7回	ジャン・ルノワール その1
第8回	ヌーヴェル・ヴァーグの源流1 ——アンドレ・バザンの思想
第9回	ヌーヴェル・ヴァーグの源流2 ——戦後イタリア派とオーソン・ウェルズ
第10回	ヌーヴェル・ヴァーグ1 フランソワ・トリュフォー その1
第11回	ヌーヴェル・ヴァーグ2 フランソワ・トリュフォー その2
第12回	ヌーヴェル・ヴァーグ3 ジャン＝リュック・ゴダール
第13回	ロベール・ブレッソン
第14回	理解度の確認
第15回	前期の振り返り
第16回	ヌーヴェル・ヴァーグ4 エリック・ロメール
第17回	戦後のジャン・ルノワール
第18回	ジャック・ドゥミ
第19回	映画と色彩
第20回	ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランス映画1
第21回	ヌーヴェル・ヴァーグ以降のフランス映画2
第22回	ヌーヴェル・ヴァーグ(バザン主義)の継承者たち1
第23回	ヌーヴェル・ヴァーグ(バザン主義)の継承者たち2
第24回	構図・カメラワークについて
第25回	編集について
第26回	隠喩、換喩について
第27回	映画と子ども
第28回	アニメ映画とリアリズム
第29回	理解度の確認

### 授業計画コメント

以上はあくまで予定ですので、受講者の理解度などを考慮のうえ、順序・内容等、変更する可能性があります。

### 授業方法

講義形式でおこないますが、リアクションペーパーなどを活用し、受講者の意見・感想等にも答える機会を作りたいと思います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業内で取り上げた映画作品については、授業後に通して見ておくことが望ましい。紹介した文献についても、授業前後に読んでおくことが望ましい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点は出席、およびリアクションペーパーの内容で評価します。  
なお、授業中の私語・遅刻・途中退席などが目立つ学生は減点することがあるので注意すること。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーの内容については、検討に値するものは授業内で随時紹介し、考察・講評をおこなう予定。

### 参考文献

- フランス映画史の誘惑:集英社新書,中条省平,集英社,2003,9784087201796
- 映画とは何か(上):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357811
- 映画とは何か(下):岩波文庫,アンドレ・バザン,岩波書店,2015,9784003357828
- Film Analysis 映画分析入門,マイケル・ライアン、メリッサ・レノス,フィルムアート社,2014,9784845914395

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

履修できるのは、フランス語圏文化学科の1、2年生のみ。但し、1、2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は履修を認める。

講義コード	U360202101	科目ナンバリング	036A203
科目名	フランス語圏文化入門(広域文化)		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	澁谷 与文		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 1時限 中央-401		

### 授業概要

フランス近現代に至る技術・認識・感性の変化についてテーマごとに概観します。

### 到達目標

フランス近現代の文化と社会を相互に関連づけて理解できる。  
現代社会の諸問題について歴史的背景を踏まえて分析できる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ワインとビール
第3回	フランスの言語環境
第4回	近代の起源
第5回	宗教改革
第6回	革命と反動
第7回	啓蒙と科学
第8回	革命前夜の人間観
第9回	植民地へのまなざし
第10回	啓蒙の世紀の女性と子供
第11回	教育制度と学校
第12回	夏季レポート準備回
第13回	子供向けの起源
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り
第16回	ナショナリズム・レジオナリズム・ユーロペイスム
第17回	ブルジョワ社会初期
第18回	オリジナリテ―著作権と発明特許
第19回	プロレタリアの現実
第20回	社会主義
第21回	二月革命と普通選挙
第22回	オスマン改造
第23回	ダーウィンと実証主義
第24回	植民地主義とフランコフォニー
第25回	死刑・冤罪・無罪―警察制度とドレフュス事件
第26回	科学万能主義の終焉
第27回	冬季レポート準備回
第28回	両大戦間
第29回	理解度の確認
第30回	振り返り

### 授業方法

講義が中心ではありますが、ジェネリックスキルを意識しつつ、学生が書いて・議論して・整理して・振り返る時間を設けます。主体的に学ぶ中で知識の交換と定着を目指しますので、授業への能動的な参加が必要です。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

毎回、課題図書を指定する。指定された図書の指定された箇所を図書館・研究室で探して読解する(30分)

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	第1学期、第2学期
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	毎回のリアクションペーパー
その他(備考欄を参照)		

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーには下線などの記号や、コメントを付して返却する。  
レポートの評価基準は、授業の進捗とともに段階的に解説した後、評価基準表を配布する。

#### 参考文献

フランス文化史I, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510018  
フランス文化史II, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510025  
フランス文化史III, ジョルジュ・デュビイ、ロベール・マンドルー, 人文書院, 1969, 978-4409510032  
1789年—フランス革命序論: 岩波文庫, ジョルジュ・ルフェーヴル, 岩波書店, 1998, 978-4003347614  
「近代」の意味: NHKブックス, 桜井哲夫, 日本放送出版協会, 1984, 978-4140014707

#### 参考文献コメント

毎回リストを配布する

#### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

#### その他

フランス語圏文化学科の学生の1・2年生のみ履修可。但し、1・2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は、履修を認める。



講義コード	U360203101	科目ナンバリング	036A204
科目名	フランス語圏文化入門(文学・思想)		
副題	フランス文学の歴史		
英文科目名	Introduction to French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	中山 慎太郎		
単位	4	配当年次	学部 1年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 西1-101		

### 授業概要

中世から現代にいたるフランス語圏の文学の流れをたどりながら、毎回代表的な作品の抜粋を読んでいます。受講者各人が、それぞれの興味に従って読書を広げ、深めていく手がかりとなることを期待しています。

### 到達目標

1. フランス語圏文学の豊かさと多様性に触れる。
2. フランス語圏文学のおおまかな全体像を把握する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、フランス語の成り立ち
第2回	中世(1): 聖人伝、武勲詩、トゥルバドゥール
第3回	中世(2): 『トリスタンとイゾー』——トマ版とベルール版を比較して
第4回	16世紀(1): ルネサンスとは?、人文主義とラブレール、モンテーニュ
第5回	16世紀(2): 16世紀の詩(ルイズ・ラベ、ロンサールなど)
第6回	17世紀(1): 古典主義とは? ——コルネイユ、ラシーヌ、モリエール(1)
第7回	17世紀(2): 古典主義とは? ——コルネイユ、ラシーヌ、モリエール(2)
第8回	17世紀(3): 「我惟う、ゆえに我あり」(デカルト)、「人間は考える葦である」(パスカル)
第9回	17世紀(4): 『寓話』(ラ・フォンテーヌ)、『ペロー童話集』(ペロー)
第10回	18世紀(1): 啓蒙思想とは? ——モンテスキュー、デイドロ、ヴォルテール、ルソー
第11回	18世紀(2): ファム・ファタルの原型 ——『マノン・レスコー』(アベ・プレヴォー)
第12回	18世紀(3): 書簡体小説の魅力 ——『危険な関係』(ラクロ)
第13回	18-19世紀: 擬古典主義からロマン主義へ ——ロマン主義の先駆者たち、スタール夫人、シャトーブリアン
第14回	19世紀(1): ロマン主義とは? ——ユゴー、ラマルチーヌ、ヴィニー、ミュッセ
第15回	理解度の確認
第16回	19世紀(2): 小説家ユゴーと他のロマン主義の作家たち、スタンダール
第17回	19世紀(3): 「人間喜劇」(バルザック)、19世紀の悪女(ファム・ファタル) ——『カルメン』(メリメ)
第18回	19世紀(4): 『悪の華』、『パリの憂愁』(ボードレール)
第19回	19世紀(5): 詩人たちの交感 ——ヴェルレーヌとランボー
第20回	19世紀(6): 写実主義から自然主義へ ——フロベール、ゾラ、モーパッサン
第21回	20世紀前半(1): 「20世紀最大の知性」 ——ヴァレリー
第22回	20世紀前半(2): 『失われた時を求めて』(プルースト)
第23回	20世紀前半(3): エスプリ・ヌーヴォーとは? ——アポリネールと前衛の芸術家たち、ベル・エポックと女流作家コレット
第24回	20世紀前半(4): 「革命」 ——ダダとシュルレアリスム
第25回	20世紀前半(5): 自由を求めて ——第二次世界大戦とレジスタンス文学
第26回	20世紀後半(1): 実存主義とは? ——サルトル、ボーヴォワール、カミュ
第27回	20世紀後半(2): 不条理演劇
第28回	20世紀後半(3): ヌーヴォー・ロマンとは?、第二次世界大戦後の詩の状況
第29回	20世紀後半(4): デュラス、クレオールとは?
第30回	理解度の確認

### 授業計画コメント

授業計画はあくまで目安ですので、授業の進度、受講者の興味に応じて内容や順序を変更することがあります。

### 授業方法

テキストを随時配布の上、講義形式で進めます。作品からの抜粋・引用等は日本語訳を用います。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

教科書の該当箇所と配布したテキストを事前に読んでおくこと(30分)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	コメントペーパー
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーに書かれた疑問や意見に関して、各回の授業の冒頭で回答、コメントします。

### 教科書

増補 フランス文学案内:岩波文庫,渡辺一夫・鈴木力衛編,岩波書店,1990

### 参考文献

フランス文学史,田村毅・塩川徹也編,東京大学出版会,1995

新版 フランス文学史,饗庭孝男ほか編,白水社,1992

はじめて学ぶフランス文学史,横山安由美・朝比奈美知子編著,ミネルヴァ書房,2002

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

フランス語圏文化学科の学生の1・2年生に限ります。但し、1,2年生以外でも「ゼミナール」を履修する資格のない学生は、履修を認めます。

講義コード	U360204101	科目ナンバリング	036A301
科目名	フランス語圏文化講義(言語・翻訳)		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Language & Translation )		
担当者名	寺家村 博		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 木曜日 1時限 中央-508		

### 授業概要

このクラスでは1年を通してフランス語圏という概念がもつ意味、そしてフランス語圏の国や地域の中で何かを表現するというのがどのような意味を持ちうるのかを探っていきます。具体的には組織としてのフランス語圏の成立過程を学び、西ヨーロッパ、北米、アフリカなどに点在するフランス語圏の国や地域の文化的特徴をテキストを訳読しながら理解していきます。更にフランス語圏の文学作品にもできるだけ多く触れていきます。第2学期には訳読に関連したグループワークなども取り入れていく予定です。そして最終的に受講学生がフランス語圏を通してフランスをあらたに捉え直すという新しい視座を獲得することを目指します。

### 到達目標

フランスを内からではなく、外から理解する視点を持つことができる。 フランス語圏の国々の社会、文化、言語政策などに関する知識を得ることができる。 さまざまなタイプのフランス語の文章を翻訳する機会となる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期オリエンテーション
第2回	詳細な講義概要、講義の進め方の説明
第3回	プリント1 フランス語圏の成立1
第4回	プリント2 フランス語圏の成立2
第5回	プリント3 世界のフランス語圏を概観する1
第6回	プリント4 世界のフランス語圏を概観する2
第7回	プリント5 西ヨーロッパのフランス語圏1
第8回	プリント6 西ヨーロッパのフランス語圏2
第9回	プリント7 西ヨーロッパのフランス語圏3
第10回	プリント8 アフリカのフランス語圏
第11回	プリント9 北米のフランス語圏
第12回	プリント10 フランス語圏におけるフランス語の使用状況1
第13回	プリント11 フランス語圏におけるフランス語の使用状況2
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り
第16回	第2学期オリエンテーション
第17回	グループワーク(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)1
第18回	グループワーク(西ヨーロッパのフランス語圏に関する発表)2
第19回	グループワーク(西ヨーロッパのフランス語に関する発表)3
第20回	グループワーク(カリブ海のフランス語圏に関する発表)
第21回	グループワーク(アフリカのフランス語圏に関する発表)
第22回	グループワーク(カナダのフランス語圏に関する発表)
第23回	プリント12 カナダのフランス語圏の文学作品を読む1
第24回	プリント13 カナダのフランス語圏の文学作品を読む2
第25回	プリント14 カナダのフランス語圏の文学作品を読む3
第26回	プリント15 カナダのフランス語圏の文学作品を読む4
第27回	プリント16 ヨーロッパやアフリカのフランス語圏の文学作品を読む1
第28回	プリント17 ヨーロッパやアフリカのフランス語圏の文学作品を読む2
第29回	理解度の確認
第30回	振り返り

### 授業方法

演習形式で進めていきます。受講学生のクラスへの積極的な参加を期待します。 また仏和辞書は必ず毎時間持参すること。

### 使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**

次の授業のために配布したプリントは予め日本語に訳しておくこと(約2時間)

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

テストの返却をおこない、解説をする

**教科書コメント**

プリントは授業時に配布する

**履修上の注意**

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360205101	科目ナンバリング	036A302
科目名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)A		
副題	フランス映画概説		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	中条 省平		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 1時限 西2-501		

### 授業概要

リュミエール兄弟による映画の発明から現代まで、フランス映画の歴史をたどる。受講者はフランス語ができるという利点があるので、フランス語の文献を活用して授業内容の深化を図る。

### 到達目標

単にフランス映画の歴史的概観を体得するのみならず、映画とは何か、表象芸術とは何かという根源的な問題についても思考しうる哲学的、歴史的基礎を身につけてもらいたい。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	リュミエール兄弟
第2回	ジョルジュ・メリエス
第3回	パテとゴーモン
第4回	フィルム・ダール
第5回	マックス・ランデル
第6回	エミール・コール
第7回	アリス・ギイ
第8回	ルイ・フィヤード
第9回	アベル・ガンズ
第10回	アヴァンギャルド映画
第11回	詩的レアリスム
第12回	ルネ・クレール
第13回	ジャック・プレヴェール
第14回	理解度の確認
第15回	自主研究(予備日)
第16回	ジャン・ヴィゴ
第17回	ジャン・ルノワール
第18回	マルセル・カルネ
第19回	ジャック・ベッケル
第20回	ジャン=ピエール・メルヴィル
第21回	ロベール・ブレッソン
第22回	ジャック・タチ
第23回	ジャン・コクトー
第24回	アレクサンドル・アストリュック
第25回	クロード・シャブロール
第26回	フランソワ・トリュフォー
第27回	ジャン=リュック・ゴダール
第28回	エリック・ロメール
第29回	理解度の確認
第30回	自主研究(予備日)

### 授業計画コメント

以上の予定はあくまでも予定であって、それぞれの説明が予想外に膨らむこともあるであろう。機械的に映画の歴史を図式化することより、映画の醍醐味をできるかぎり生々しく伝えるような授業でありたい。

### 授業方法

講義形式。フランス語のプリントを配って随時解説する。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業中に言及された映画作家、スタッフ、映画作品、映画専門用語などについて、各種辞書や百科事典、映画事典などを丹念に引きながら確認し、理解を深めること。また、授業中に配布され解説されたフランス語文献を復習して、自分でもきちんと意味が分かるようにしておくこと(約1時間半)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	70 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

教室で直接説明する。

### 教科書コメント

とくにない。

### 参考文献コメント

教室で直接指示する。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修制限あり(50名)。フランス語圏文化講義(舞台・映像)Bの重複履修不可。

講義コード	U360205102	科目ナンバリング	036A302
科目名	フランス語圏文化講義(舞台・映像)B		
副題	芸術ダンスの系譜		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	岡見 さえ		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 北1-308		

### 授業概要

現代の社会にはダンスがあふれているが、美術や音楽等の他の芸術の領域に比べ、ダンスの歴史や美学はまだ十分には共有されていない。それゆえにダンスは、しばしば理解しづらい芸術、あるいは感覚的な気晴らしと捉えられがちだ。この授業では、フランス語圏を中心に、ダンス・クラシック(バレエ)からコンテンポラリーダンスに至る芸術ダンスの歴史を把握し、現代のダンス作品に表れている多様な美学や問題系への理解を深める。前半では、テキスト(主にフランス文学)に基づくバレエ作品を時代順に取り上げ、ダンスと「物語」の関係を考察する。後半では、ダンス・クラシックを批判的に継承した20世紀以降のダンス、特に1980年代以降のダンス(コンテンポラリーダンス)を学ぶ。舞踊は時代に鋭く呼応する現代アートであるゆえ、作品の考察の過程においては、メディア、ジェンダー、ディアスポラ、都市空間等、現代の身体をめぐる諸問題にも接近するだろう

### 到達目標

芸術としてのダンスの歴史を理解し、振付作品を言語化する力と、批評に必要な分析力の基礎を身につけることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	バレエ史概説
第3回	「物語」とバレエ理論
第4回	『ジゼル』(1841)コラリ、ペロー振付
第5回	『眠れる森の美女』(1890)プティパ振付
第6回	『牧神の午後』(1913)ニジンスキー振付
第7回	『若者と死』(1946)プティパ振付
第8回	『アルルの女』(1974)プティパ振付
第9回	『マノン』(1974)マクミラン振付
第10回	『椿姫』(1978)ノイマイヤー振付
第11回	『シンデレラ』マラン版(1985)、ヌレエフ版(1986)、マイヨー版
第12回	古典の「読み直し」:『牧神』ロビンス版(1953)、『ジゼル』エック版(1987)、『眠れる森の美女』ヌレエフ版(1989)
第13回	『ヴェロニク・ドワノー』(2004)ベル振付
第14回	まとめ
第15回	振り返り
第16回	バレエ・リュス
第17回	モダンダンス、ポストモダンダンス
第18回	1960-70年代のフランス・ダンスと社会の状況
第19回	1980年代のコンテンポラリーダンス(1)
第20回	1980年代のコンテンポラリーダンス(2)
第21回	1990年代のコンテンポラリーダンス(1)
第22回	1990年代のコンテンポラリーダンス(2)
第23回	2000年代のコンテンポラリーダンス
第24回	2000-2010年代のコンテンポラリーダンス
第25回	2010年代のコンテンポラリーダンス
第26回	フランス語圏(ケベック)のコンテンポラリーダンス
第27回	日本のコンテンポラリーダンスとフランス(1)
第28回	日本のコンテンポラリーダンスとフランス(2)
第29回	まとめ
第30回	振り返り

### 授業計画コメント

シラバスに記した進度には、受講者の関心等に応じて多少の変更が生じることがある。

### **授業方法**

ダンス動画の鑑賞と講義によって進める。教材は補助プリントを配布する。毎回授業後に、リアクションペーパーを課す。

### **使用言語**

日本語

### **準備学習(予習・復習)**

授業前に、前期は次回授業で扱う文学作品の筋をまとめておくこと。後期は次回授業で扱う振付家、作品について調べておくこと。授業後はリアクションペーパーを書くこと。(計1時間半程度)

### **成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

リアクションペーパーは、授業内でコメントを行い授業に反映させる。レポートは希望者に返却する。

### **参考文献コメント**

授業で指示する。

### **履修上の注意**

第1回目の授業に必ず出席のこと。  
履修制限あり(50名)。フランス語圏文化講義(舞台・映像)Aの重複履修不可。



講義コード	U360206101	科目ナンバリング	036A303
科目名	フランス語圏文化講義(広域文化)A		
副題	フランスと東アジア、文化関係史		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	菅野 賢治		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西5-301		

## 授業概要

不思議なことに、日本の地でフランスやフランス語圏に興味・研究の対象とする人々は、往々にして、日本以外の東アジア(朝鮮、中国、台湾、ヴェトナム)が、過去数世紀間、フランスやフランス語圏とのあいだにどのような関係史を築いてきたのか、まったく無知であることが多いものです。あたかも「われわれ」と「西洋」とを繋ぐ思考の回路そのものが、植民地時代の分断統治の痕跡を引きずっているかのごとくです(韓国の政治学者・李用熙(イ・ヨンヒ、1917-1997)は、この事態を指して「ひまわり現象」と名付けました)。たとえば、17世紀、フランス出身者が初めて来訪した東アジアの土地は、越南だったのか、中国だったのか、朝鮮だったのか、あるいは日本だったのか? たとえば、1880年、史上初の『朝鮮語=フランス語辞典』は、なぜ、横浜で印刷・刊行されなければならなかったのか? ……

学習院大学でフランス語圏のことを学ぶ皆さんには、この盲点と苦手意識を克服してもらいたいと思い、講師の知識・力量から見てやや手に余る主題ではありますが、17世紀から説き起こし、東アジアの地域全体がフランスとどのように触れ合ってきたのか、時間軸に沿って勉強することになります。

## 到達目標

- ・日本を含む東アジア地域の歴史、地理、文化の理解に、フランス語の語学力を応用できるようになる。
- ・日本とフランス・フランス語圏の関係を思考する際に、東アジアを交えた三点観測の視点を導入できるようになる。

## 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション 漢語文化圏という考え方 李用熙のいう「ひまわり現象」について考える
第2回	前史 キリスト教西洋と東アジア
第3回	日本 17世紀初め:フランソワ・カロンが見た江戸時代の日本
第4回	テキスト講読(フランソワ・カロンが宰相コルベールに宛てた意見書)
第5回	ヴェトナム 17世紀:アレクサンドル・ド・ロードの業績
第6回	テキスト講読(ド・ロードの回想録)
第7回	中国 17～18世紀:典礼論争とは何か(1)
第8回	テキスト講読(ル・コント神父の書簡)
第9回	中国 17～18世紀:典礼論争とは何か(2)
第10回	テキスト講読(シャヴァニャック神父の書簡)
第11回	朝鮮 18世紀:ラ・ペルーズが「見た」朝鮮
第12回	テキスト講読(ラ・ペルーズの旅行記より)
第13回	琉球 1840年代:フォルカードの琉球滞在
第14回	テキスト講読(フォルカードの滞在記)
第15回	自主研究
第16回	筆記 遠藤周作『女の一生 一部 キクの場合』(新潮文庫) ジュール・ヴェルヌ『必死の逃亡者』(創元SF文庫) ピエール・ロチ『お菊さん』(岩波文庫) いずれかをあらかじめ読んでおき、「東西文化の出会いと確執」という観点から考えたことを記す
第17回	日本 1860～70年代:長崎の隠れ切支丹——プティジャン神父とド・ロ神父
第18回	テキスト講読(プティジャン神父の手紙)
第19回	中国 19世紀末:ジュール・ヴェルヌの作品の中の東アジア
第20回	テキスト講読(ヴェルヌ『必死の逃亡者』)
第21回	日本 明治維新期:エミール・ギメとフェリックス・レガメーの日本旅行
第22回	テキスト講読(ギメ『東京日光散策』)
第23回	テキスト講読(レガメー『日本』)
第24回	朝鮮・日本 1870-80年代:横浜のフランス語新聞『レコー・デュ・ジャポン』とリデル神父による『朝仏辞典』
第25回	テキスト講読(リデル神父の書簡)
第26回	日本 19世紀末:ピエール・ロティの日本
第27回	テキスト講読(ロティ『お菊さん』その1)
第28回	テキスト講読(ロティ『お菊さん』その2)
第29回	テキスト講読(フェリックス・レガメー『お菊さんの桃色手帖』)

### 授業方法

講義形式です。時代・テーマごとに歴史概説、作家紹介を行った後、必ずフランス語テキストの抜粋を原文で読みます。テキストや資料は、毎回、プリントで配布します。教員の授業ノートをそのままプロジェクターで投射し、それを後日、教員のURLからダウンロードできるようにします。http://www17.plala.or.jp/kenjikanno/gakushuin.html  
ダウンロードの仕方などを一回目の授業で指示しますので、必ず出席してください。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

- ・事前に配布するフランス語テキストを読み、単語の意味を調べておくこと(30～45分)
- ・第二学期の初回に行う筆記に際しては、事前に指定したテキストから一つを読んで、考えをまとめておくこと

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	70 %	扱ったテキストをよく読み、自分自身の感想、意見をわかりやすくまとめてください
中間テスト	30 %	事前に指定したテキストのなかから1つを選び、夏休み中にしっかり読んでおくこと
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

講師が講義中に語ったことをそのまま答案に書き写すのではなく、みずからテキストに触れたときの印象、感想から出発し、自分自身で考えたことをフィードバックして欲しいと思います。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

中間テスト(第二学期1回目の筆記)に向けて、夏休み中に読んでもらう作品は、すべて第二学期で扱うものです。それぞれについて、筆記をつうじて皆さんから寄せられた疑問、感想、考察を、第二学期の授業のなかで紹介し、役立てていきます。

### 教科書コメント

教科書は特に使用しません。資料や講読テキストは毎回プリントで配布します。

### 参考文献コメント

必読図書、参考文献は、時代ごと、テーマごとに授業内で紹介します。

### 履修上の注意

1回目の授業に必ず出席のこと。  
履修制限あり(50名)。フランス語圏文化講義(広域文化)Bの重複履修不可。

### その他

- ・質問などがある学生は、授業の前後の時間を活用してください。
- ・名簿順に座席を固定し、毎回、始業時に出席をチェックします。遅刻ないし欠席が半期で4回(公欠、忌引、交通機関の遅延の場合を除く)に達した学生は学年末試験を受ける資格を失いますので注意してください。

講義コード	U360206102	科目ナンバリング	036A303
科目名	フランス語圏文化講義(広域文化)B		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	辻川 慶子		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 南1-305		

### 授業概要

「19世紀の首都」(ベンヤミン)、「記号の首都」(スティール)と評されるパリについて、これまで人々は多くの言説を紡いできました。パレ・ロワイヤル、ノートル＝ダム大聖堂、シャンゼリゼ通りといった場所からカフェ、レストラン、劇場、社交生活まで、パリの姿は様々な文学や絵画で描かれ、人々を惹きつけています。一方で鉄道の誕生、「レジャーの誕生」(コルバン)とともに、都会を離れ、地方の田園、海岸、温泉地に赴く魅惑も高まっています。パリと地方に人々は何を求め、どのようなまなざしを向けたのでしょうか。この授業では、パリそしてフランスの地方の姿を、19世紀の文学やジャーナリズム、芸術作品などを通して辿っていききたいと思います。

### 到達目標

19世紀フランスの文化に関する理解を深め、都市あるいは地方の言説がどのように生まれたのかについて考察する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入(1):パリの誘惑、地方の魅惑
第2回	導入(2):パリの歴史
第3回	パリ情景前史(1):メルシエ
第4回	パリ情景前史(2):レチフ・ド・ラ・ブルトンヌ
第5回	レストランの誕生、美食家の誕生(1): レストラン、カフェ
第6回	レストランの誕生、美食家の誕生(2):グルマンディーズ
第7回	レストランの誕生、美食家の誕生(3):『美食年鑑』
第8回	レストランの誕生、美食家の誕生(4):『美味礼賛』
第9回	これまでのまとめと復習
第10回	社交とジャーナリズム(1):セレブの誕生
第11回	社交とジャーナリズム(2):サロンと社交界
第12回	社交とジャーナリズム(3):『パリ便り』
第13回	社交とジャーナリズム(4):日常の詩学
第14回	これまでのまとめと復習
第15回	理解度の確認
第16回	後期導入:パリと地方
第17回	建築物と文学・芸術(1):ノートル＝ダム大聖堂
第18回	建築物と文学・芸術(2):オペラ座と劇場
第19回	建築物と文学・芸術(3):街路と広場
第20回	建築物と芸術・文学(4):都市を描く
第21回	歴史記念碑と文化遺産(1):文化財保護制度の歴史
第22回	歴史記念碑と文化遺産(2):記念碑博物館と歴史的記念物委員会
第23回	歴史記念碑と文化遺産(3):修復と保存
第24回	これまでのまとめと復習
第25回	鉄道の誕生、レジャーの誕生(1):旅行の歴史
第26回	鉄道の誕生、レジャーの誕生(2):鉄道の歴史とガイドブックの時代
第27回	鉄道の誕生、レジャーの誕生(3):レジャーの誕生
第28回	鉄道の誕生、レジャーの誕生(4):温泉街、海辺、自然再訪
第29回	これまでのまとめと復習
第30回	理解度の確認

### 授業計画コメント

履修者の関心や理解度に応じて進度を変更することがあります。

### 授業方法

講義形式で行います。内容理解のために日本語・フランス語の文献読解を行うことがあります。また、毎回履修者にコメントペーパーの提出を求めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

19世紀フランスを中心に、関心のある分野の文献調査を進めてください(1時間程度)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

学期末試験(40%)および学年末試験(40%)では、授業で扱った内容の理解度を問い、また文献調査などで自分なりに考察を深めた部分を評価します。また、毎回授業で提出するコメントペーパー(20%)では、扱ったテーマに関して考察を書いていただきます。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

コメントペーパーで書かれた意見、質問は次回授業時に紹介し、フィードバックを行います。また、試験はコメントを付して返却します。

### 教科書コメント

プリント教材を中心に進めます。

### 参考文献コメント

授業時に指示します。

### 履修上の注意

履修者数は最大50名で、フランス語圏文化講義(広域文化)(A)との重複履修はできません。履修希望者が50名を超えた場合には、第1回目の授業で抽選を行いますので、第一回目の授業には必ず出席してください。

講義コード	U360207101	科目ナンバリング	036A304
科目名	フランス語圏文化講義(文学・思想)		
副題	20世紀フランス小説の三態		
英文科目名	Lecture on French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	三ツ堀 広一郎		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 西2-501		

### 授業概要

いわゆるリアリズム小説の枠組みを脱する新たな小説形式の探求という観点から、20世紀の、とくに戦後のフランス小説を検討します。出発点として、カミュの三作品を戦後フランス小説の三つの原型として捉え、それぞれから形式上の問題を引き出します。1)『異邦人』からは「零度のエクリチュール」や「描写」の問題を、2)『ペスト』からは「歴史＝物語」や「寓話」の問題を、3)『転落』からは「信頼できない語り手」や「語り声」の問題を、それぞれ引き出すことができます。戦後のフランスにあらわれた多様な小説作品を、この三つの問題設定のいずれかのうちに仮説的に囲い込んだうえで考察します。

カミュのほかに扱う予定でいるのは、1)ロブ＝グリエやシモンといった《ヌーヴォー・ロマン》の作家たち、2)トゥルニャックやグラックといった《アレゴリー》の作家たち、3)ベケットやブランショといった《レシ》の作家たち。また時間の許すかぎり、ブルースト、ジッド、セリーヌ、サルトルといった20世紀フランス文学の巨頭にも触れます。小説作品と並行して、関連する批評や文学理論の紹介もします。

### 到達目標

多種多様な20世紀フランス小説についての知識を習得しながら、文学作品を知的に読むための分析力を身につける。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	零度のエクリチュール:カミュ『異邦人』(1)
第3回	視覚描写:カミュ『異邦人』(2)
第4回	歴史＝物語:カミュ『ペスト』(1)
第5回	寓意:カミュ『ペスト』(2)
第6回	信頼できない語り手:カミュ『転落』(1)
第7回	語り声:カミュ『転落』(2)
第8回	現象学と小説:サルトル『嘔吐』
第9回	メタフィクションと紋中紋:ブルースト『失われた時を求めて』とジッド『贗金づくり』
第10回	ヌーヴォー・ロマン(1):アラン・ロブ＝グリエ『消しゴム』
第11回	ヌーヴォー・ロマン(2):アラン・ロブ＝グリエ『嫉妬』
第12回	ヌーヴォー・ロマン(3):クロード・シモン『フランドルへの道』
第13回	ヌーヴォー・ロマン(4):ミシェル・ビュトール『時間割』
第14回	ヌーヴォー・ロマン(5):ミシェル・ビュトール『心変わり』
第15回	第1学期のまとめ
第16回	第2学期の導入
第17回	アレゴリー(1):寓意と象徴の問題
第18回	アレゴリー(2):ミシェル・トゥルニエ『フライデーあるいは太平洋の冥界』
第19回	アレゴリー(3):ミシェル・トゥルニエ『魔王』
第20回	アレゴリー(4):ジュリアン・グラック『アルゴールの城にて』
第21回	アレゴリー(5):ジュリアン・グラック『シルトの岸辺』
第22回	シュルレアリスムと小説:アンドレ・ブルトン
第23回	文体の冒険:セリーヌとレーモン・クノー
第24回	レシ(1):ルイ＝ルネ・デ・フォレ『おしゃべり』
第25回	レシ(2):サミュエル・ベケット『モロイ』
第26回	レシ(3):サミュエル・ベケット『名づけえぬもの』
第27回	レシ(4):モーリス・ブランショ『謎の男トマ』
第28回	レシ(5):モーリス・ブランショの批評
第29回	小説とは何か:ミラン・クンデラの小説
第30回	第2学期のまとめ

### 授業計画コメント

授業の進展と受講者の理解度に応じて、実施回ごとのテーマは前後したり変更になったりする可能性がある。

### 授業方法

講義が中心だが、受講者にフランス語テキストの訳読やコメントを求めることがある。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

フランス語テキストを事前にプリントして配布することがある。辞書を引きながら読んでくること(1~2時間)。また、授業で扱う作品の邦訳書を事前に読んでおくことが望ましい。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	60 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

第1学期と第2学期に1度ずつ、授業で扱ったテーマに関するレポートを課す。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントを付けて返却する。

### 教科書コメント

授業で扱う作品の抜粋をプリントにして配布する。

### 参考文献

二十世紀フランス小説: 文庫クセジュ, ドミニク・ラバテ, 白水社, 2008, 978-4560509241

### 参考文献コメント

テキスト以外の参考文献については、教室で適宜指示する。

### 履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

授業中の積極的な発言を歓迎する。

講義コード	U360208101	科目ナンバリング	036A401
科目名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)A		
副題	旅行記研究		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation )		
担当者名	志々見 剛		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 北1-306		

### 授業概要

16-17世紀の旅行記を取り上げて、馴染みのない異国の文物をどのように言語化し、伝えようとしているかを考察する。具体的には、一学期はジャン・ド・レリの『ブラジル旅行記』(1578)、二学期はジャン・シャルダンの『ペルシャ旅行記』(1686)を取り上げる予定。(フランス語については、現代フランス語が読めれば問題ない。)

### 到達目標

旅行記のテキストを読解し、論点を理解できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	テキストの読解と発表
第3回	同上
第4回	同上
第5回	同上
第6回	同上
第7回	同上
第8回	同上
第9回	同上
第10回	同上
第11回	同上
第12回	同上
第13回	同上
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	概要の説明
第17回	テキストの読解と発表
第18回	同上
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	同上
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	まとめ
第30回	自主研究

### 授業方法

演習形式で行い、随時、コメントや解説を加える。

### 使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**

事前準備(約一時間)。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	
その他(備考欄を参照)		

**成績評価コメント**

割合は目安です。

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

適宜、コメントや講評を行う。

**教科書コメント**

別途、指定する。

**参考文献コメント**

授業内で指示する。

**履修上の注意**

発表の無断欠席と、レポート等での不正に対しては、厳正に対処する。

履修者数制限あり。(30名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。



講義コード	U360208102	科目ナンバリング	036A401
科目名	フランス語圏文化演習(言語・翻訳)B		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	横川 晶子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 4時限 西1-108		

### 授業概要

フランス語を日本語に翻訳するための知識と能力を習得するために、第1学期の授業では平易で短い文章を多く訳し、翻訳に関する基礎的な事柄を学習する。第2学期の授業では、フランスで実際に読まれている文章の日本語訳に取り組み、翻訳の実践を試みる。最新のフランス事情を反映するテキストを通じて、フランスのアクチュアリティに触れることも心がける。

### 到達目標

フランス語と日本語の言語としての本質的な相違点を理解し、翻訳が内包する問題の分析を通じて、翻訳に必要な知識と技術を身につけることができる。また、単なる仏文和訳と翻訳はどう違うのか、良い訳文とはどのようなものか、文章の性格や目的によって訳がどう変わるのかなどを認識することで、実践的な翻訳の能力を高めることができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業内容及び授業の進め方についての説明
第2回	人称代名詞
第3回	固有名詞
第4回	前置詞(句)
第5回	接続詞(句)
第6回	関係代名詞
第7回	時制
第8回	会話体の文章
第9回	説明の文章
第10回	日記
第11回	手紙もしくはメールの文章
第12回	平易な小説(1)
第13回	平易な小説(2)
第14回	理解度の確認とまとめ
第15回	到達度確認
第16回	第1学期レポートについて確認及び解説
第17回	料理のレシピ(1)
第18回	料理のレシピ(2)
第19回	雑誌等の文章(1)
第20回	雑誌等の文章(2)
第21回	新聞記事(1)
第22回	新聞記事(2)
第23回	字幕作成(1)
第24回	字幕作成(2)
第25回	現代小説(1)
第26回	現代小説(2)
第27回	現代小説(3)
第28回	リーディング・レジユメの作成の仕方
第29回	理解度の確認とまとめ
第30回	到達度確認

### 授業方法

上記の授業内容に沿ったフランス語のテキストを毎回の授業で配布し、訳の担当者を決めます。担当者は次の授業までに、訳文を作成して事前にメールで提出します。次の授業では、講師がテキストについて説明をおこない、提出された訳文を検討すると同時に、訳の担当者や授業参加者のコメントを求めます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

課題の訳を担当する学生は締切日までに訳文を作成してメールで提出してください。担当でない学生も事前に訳文の作成を試みてください。(1時間～2時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

試験は実施せず、平常点(授業内の課題による訳文)及びレポート(学期末に実施)により総合的に評価します。テキストの内容を正確に把握し、不明点を調査し、適格な日本語の文章で訳文を作成しているかどうかを評価のポイントとします。また、指定された期日内に訳文を提出することも重視します。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

平常の課題については毎回の授業で解説を行いコメントを述べます。第1学期のレポートについては、第2学期の初回授業で解説し、適宜コメントを述べます。

### 教科書コメント

毎回の授業でプリントを配布します。

### 参考文献コメント

必要に応じて教室で指示します。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。(30名)

第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修希望者が30名を超えた場合、初回の授業において以下の優先順位で受講できる学生を決めます。

1)「卒業翻訳」を選択した4年生。

2)「言語・翻訳」コース所属の4年生

3)言語・翻訳」コース所属で、「卒業研究(卒業論文・卒業翻訳)」を予定している3年次の学生。

4)その他の3、4年生。

\*履修希望者が30名を超えた場合、4)の中で抽選を行います。

### その他

課題の訳文をメールにより提出してもらうので、できるだけPC環境を整えておいて下さい。

講義コード	U3602081Z1	科目ナンバリング	036A401
科目名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	DELEMAZURE, Raoul		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 仏文院生室		

### 授業概要

écriture académique en français (explication de texte et dissertation).

### 到達目標

Découvrir ou s'améliorer dans les exercices académiques français.

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Méthode de l'explication de texte.
第2回	Texte 1 (faire un plan)
第3回	Texte 1
第4回	Texte 2 (l'introduction)
第5回	Texte 2
第6回	Texte 3 (le paragraphe)
第7回	Texte 3
第8回	Texte 4 (analyser les exemples)
第9回	Texte 4
第10回	Texte 5 (la troisième partie)
第11回	Texte 5
第12回	Texte 6 (la conclusion)
第13回	Texte 6
第14回	Texte de l'exercice final
第15回	Correction du rapport du premier semestre.
第16回	Méthode de la dissertation
第17回	Dissertation 1 (faire un plan)
第18回	Dissertation 1
第19回	Dissertation 2 (l'introduction)
第20回	Dissertation 2
第21回	Dissertation 3 (le paragraphe)
第22回	Dissertation 3
第23回	Dissertation 4 (la transition)
第24回	Dissertation 4
第25回	Dissertation 5 (améliorer les exemples)
第26回	Dissertation 5
第27回	Dissertation 6 (rédiger la troisième partie)
第28回	Dissertation 6
第29回	Dissertation finale
第30回	Correction du rapport du second semestre en classe.

### 授業方法

Travail collectif avec participation active.

### 使用言語

1

### 準備学習(予習・復習)

Lire les textes et chercher des exemples pour les dissertations.

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Les cours 15 et 30 seront les corrections des rapports.

#### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

#### その他

Les textes seront distribués en classe.

講義コード	U3602081Z2	科目ナンバリング	036A401
科目名	◇フランス語圏文化演習(言語・翻訳)		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Language & Translation)		
担当者名	中尾 和美		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 5時限 西2-406		

### 授業概要

フランス語で書かれた言語学関連の論文を読むことで、論文フランス語に慣れると同時に、言語学の第一歩となるような視点を養う。今年度は、主として看板、広告、注意書き、落書きなど公共空間に見られる言葉の考察を深めたい。

### 到達目標

論文フランス語を通してフランス語の知識を増やすこと、書き言葉のフランス語に慣れること、フランス語らしいフランス語が書けるようになること、ことば一般に対する興味を深めることを目指す。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	公共空間における言語表示について(1)看板・広告
第3回	公共空間における言語表示について(2)注意書き・警告
第4回	公共空間における言語表示について(3)落書き
第5回	公共空間における言語に関する論文講読(1)
第6回	公共空間における言語に関する論文講読(2)
第7回	公共空間における言語に関する論文講読(3)
第8回	公共空間における言語に関する論文講読(4)
第9回	公共空間における言語に関する論文講読(5)
第10回	公共空間における言語に関する論文講読(6)
第11回	発表(1)
第12回	発表(2)
第13回	発表(3)
第14回	授業の総括
第15回	予備日
第16回	日本の街中に見られるフランス語
第17回	多言語表記の標識や看板
第18回	公共空間における言語に関する論文の講読(1)
第19回	公共空間における言語に関する論文の講読(2)
第20回	公共空間における言語に関する論文の講読(3)
第21回	公共空間における言語に関する論文の講読(4)
第22回	公共空間における言語に関する論文の講読(5)
第23回	公共空間における言語に関する論文の講読(6)
第24回	公共空間における言語に関する論文の講読(7)
第25回	公共空間における言語に関する論文の講読(8)
第26回	発表(1)
第27回	発表(2)
第28回	発表(3)
第29回	授業の総括
第30回	予備日

### 授業方法

一方的な講義ではなく、参加者との議論を交えて授業を進めていく。またフランス語で書かれた論文を精読することで、考察を深めると同時に、論文フランス語のスタイルに慣れ、かつフランス語での読解力を養うことを目標とする。定期的に参加者の発表を予定しているため、積極的に議論に参画し、かつ言語調査をする意欲を持っていることが望まれる。参加者の興味によっては、柔軟に授業の内容を変更することもあるので、各自興味と意欲を持って授業に臨んでほしい。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

論文の担当箇所を調べるだけでなく、論文全体を読んで内容を理解するようにしておくこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):(テキストの予習、授業における参画、発表。)単なる出席ではなく、授業への参加態度も成績評価の対象とする。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートについては、コメント、返却する。

### 教科書コメント

授業で講読する論文は、授業中に指示する。

### 参考文献

- Les voix de la ville,L.-J. Calvet,Editions Payot & Rivages,1994
- Linguistic landscapes,P. Backhaus,Multilingual Matters,2007
- ミモロジック,G.ジュネット,書肆風の薔薇,1991
- Dire presque la même chose,U.Eco,Le livre de poche,2010
- Terminologie(s) et traduction,Manca-Marna Velicu,Peter Lang,2018

### 参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360209101	科目ナンバリング	036A402
科目名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)A		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	彦江 智弘		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西1-307		

### 授業概要

フランスは映画のみならず写真を生み出した国であり、映像文化の豊かな伝統を育んできた。その一方で写真や映画をめぐる批評的言説を独自に発展させてもきた。本講義では、そのようなフランスの写真・映画批評のいくつかを取り上げ、それらを理解するとともに、それらを応用して実践的な作品分析を試みる。前期では写真をテーマに、主にロラン・バルトの写真論を取り上げる。なお短い抜粋をフランス語で読むことがある。後期は、同じバルトの映画論を起点に映画作品の分析を試みる。

### 到達目標

①映像理論を身につける。②映像を分析的に見ることができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション①写真
第2回	写真とは何か
第3回	写真経験を語る
第4回	バルトの写真論①
第5回	バルトの写真論②
第6回	作品分析
第7回	作品分析
第8回	作品分析
第9回	関連写真論①
第10回	作品分析
第11回	作品分析
第12回	関連写真論②
第13回	作品分析
第14回	作品分析
第15回	前期の振り返り
第16回	イントロダクション②映画
第17回	映画とは何か
第18回	映画経験を語る
第19回	バルトの映画論①
第20回	バルトの映画論②
第21回	作品分析
第22回	作品分析
第23回	作品分析
第24回	関連映画論①
第25回	作品分析
第26回	作品分析
第27回	関連映画論②
第28回	作品分析
第29回	作品分析
第30回	後期の振り返り

### 授業方法

演習形式。レクチャー、議論、発表を交えて授業を進める。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業で取り上げるテキストや作品を事前に自分で検討する。授業後には、授業での議論をふまえ自分なりの作品分析を深める。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

演習形式の授業であるため、授業への積極的な参加度を重視する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

演習形式の授業のため、授業内での参加者との議論の中でフィードバックは行う。

### 参考文献

明るい部屋, ロラン・バルト, みすず書房, 978-4622049050

ロラン・バルト映画論集, ロラン・バルト, 筑摩書房, 978-4480084644

まなごしのエクササイズ, ロズウェル・アンジェ, フィルムアート社, 978-4845912063

写真の理論, 甲斐義明, 月曜社, 978-4865030518

インスタグラムと現代視覚文化論, レフ・マノヴィッチ, ビー・エヌ・エヌ新社, 978-4802511018

### 参考文献コメント

その他の参考文献は授業で適宜指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。

第1回目の授業に必ず出席のこと。



講義コード	U360209102	科目ナンバリング	036A402
科目名	フランス語圏文化演習(舞台・映像)B		
副題	コルネイユ『ロドギユヌ』を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	畠山 香奈		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 4時限 西1-305		

### 授業概要

ピエール・コルネイユ『ロドギユヌ(1644年)』を精読する。

### 到達目標

韻文で書かれたフランス語のテキストに親しむ。  
17世紀フランスの文化的な背景を理解する。  
フランス語の発音規則をマスターする。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(フランス演劇史概説、文法的解説等)
第2回	第1幕(1)
第3回	第1幕(2)
第4回	第1幕(3)
第5回	第1幕(4)
第6回	第1幕(5)
第7回	第1幕(6)
第8回	第2幕(1)
第9回	第2幕(2)
第10回	第2幕(3)
第11回	第2幕(4)
第12回	第2幕(5)
第13回	第2幕(6)
第14回	総括
第15回	振り返り
第16回	第3幕(1)
第17回	第3幕(2)
第18回	第3幕(3)
第19回	第3幕(4)
第20回	第3幕(5)
第21回	第4幕(1)
第22回	第4幕(2)
第23回	第4幕(3)
第24回	第4幕(4)
第25回	第4幕(5)
第26回	第5幕(1)
第27回	第5幕(2)
第28回	第5幕(3)
第29回	総括
第30回	振り返り

### 授業計画コメント

以上はあくまでも予定であり、実際の進め方とは変更が生じる場合がある。

### 授業方法

第1学期は輪読形式で授業を進める。  
第2学期は訳読と解説を参加者に担当してもらい演習形式で授業を行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

授業前にテキストの該当箇所を読んでおくこと。  
分からない単語があれば意味を事前に調べてくること(あわせて約1時間)。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	授業内での訳読
その他(備考欄を参照)		

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳読中心の授業のため、授業内で訳や内容に対してコメントを行う。  
また、必要に応じて適宜資料を配布する。

### 教科書

Rodogune: Folio, Pierre Corneille, Gallimard, édition de Jean Serroy, 2004

### 参考文献

コルネイユ名作集, ピエール・コルネイユ, 白水社, 1975  
フランス17世紀演劇事典, オディール・デュスッド, 伊藤洋, 中央公論新社, 2011

### 参考文献コメント

その他の参考文献については、初回の授業で指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U3602091Z1	科目ナンバリング	036A404
科目名	◇フランス語圏文化演習(舞台・映像)		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Theater & Film)		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 仏文院生室		

### 授業概要

昨年も扱ったジョルジュ・フェドー(Georges Feydeau)の作品を読み解いていく。今年度は初期のモノローグ作品の抜粋を中心に読む予定だが、まずは中期以降の作品の抜粋から始めることになるだろう。作品によっては映像資料も数種類あるので、抜粋部分を閲覧、比較しながらテキストを読み進める。

### 到達目標

フェドー作品を読むことによって、フランス20世紀演劇の流れを理解する。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Georges Feydeauについて
第2回	作品1の抜粋を読む
第3回	同上
第4回	同上
第5回	同上
第6回	同上
第7回	同上
第8回	同上
第9回	同上
第10回	同上
第11回	作品2の抜粋を読む
第12回	同上
第13回	同上
第14回	同上
第15回	第一学期のまとめ
第16回	作品3の抜粋を読む
第17回	同上
第18回	同上
第19回	同上
第20回	同上
第21回	同上
第22回	同上
第23回	作品4の抜粋を読む
第24回	同上
第25回	同上
第26回	同上
第27回	同上
第28回	同上
第29回	同上
第30回	1年間のまとめ

### 授業方法

受講者はそれぞれ指示された担当箇所について訳読し、教師はそれについて補足説明をする。教師が指定した事項について調べて発表するという小課題を課すこともある。

### 使用言語

日本語

**準備学習(予習・復習)**

教師が準備したテキストを予習してくる。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	70 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

レポート返却時には改良点などをコメントする。

**教科書コメント**

教室での指示に従うこと。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360210101	科目ナンバリング	036A403
科目名	フランス語圏文化演習(広域文化)A		
副題	写真を「読む」		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	内藤 真奈		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 南1-306		

### 授業概要

エルヴェ・ギベールによる写真批評『幻のイメージ』を読むことを通して、批評文の読解方法を学ぶとともに、写真を言語で表現する試みの実践に触れ、写真と文学、それぞれの表現方法の違いを味わう。

### 到達目標

1. フランス語の文章を、発音規則にしたがって音読する能力を身につける。
2. 現代フランス語で書かれた文章の読解力を習得する。
3. 読解した内容を自身の体験に引きつけ、解釈および発展的思考ができるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス 写真・写真批評の歴史 作品紹介
第2回	L'Image fantôme 講読：《 Les lunettes à lire la pensée 》 / 《 L'image fantôme 》 (1)
第3回	L'Image fantôme 講読：《 L'image fantôme 》 (2)
第4回	L'Image fantôme 講読：《 L'image fantôme 》 (3)
第5回	L'Image fantôme 講読：《 L'image parfaite 》
第6回	L'Image fantôme 講読：《 L'autoportrait 》 (1)
第7回	L'Image fantôme 講読：《 L'autoportrait 》 (2)
第8回	L'Image fantôme 講読：《 L'écriture photographique 》 (1)
第9回	L'Image fantôme 講読：《 L'écriture photographique 》 (2)
第10回	L'Image fantôme 講読：《 La photo, au plus près de la mort 》 (1)
第11回	L'Image fantôme 講読：《 La photo, au plus près de la mort 》 (2)
第12回	L'Image fantôme 講読：《 L'image cancéreuse 》 (1)
第13回	L'Image fantôme 講読：《 L'image cancéreuse 》 (2)
第14回	第一学期のまとめ
第15回	到達度確認
第16回	L'Image fantôme 講読：《 Premier amour 》
第17回	L'Image fantôme 講読：《 Exemple de photo de famille 》
第18回	L'Image fantôme 講読：《 Holographie 》
第19回	L'Image fantôme 講読：《 Photo d'identité I 》
第20回	L'Image fantôme 講読：《 Photo d'identité II 》
第21回	L'Image fantôme 講読：《 La fovéa 》
第22回	L'Image fantôme 講読：《 L'autobus 》
第23回	L'Image fantôme 講読：《 Danse 》
第24回	L'Image fantôme 講読：《 Polaroid 》
第25回	L'Image fantôme 講読：《 La retoucheuse 》
第26回	L'Image fantôme 講読：《 Le faux 》
第27回	L'Image fantôme 講読：《 Diapos 》
第28回	L'Image fantôme 講読：《 Le pharmacien de Vaugirard 》
第29回	一年のまとめ
第30回	到達度確認

### 授業計画コメント

授業の進捗・内容は、受講生の理解度と関心によって変更される可能性がある。

### 授業方法

第一学期は一人一文ずつ順番に音読・訳読する形式、第二学期は担当者による音読・訳文発表の形式で行う。発表の後、教員が質疑応答による文法事項の確認や解説をする。また、読解した内容、テーマについて、簡単なディスカッションの機会を設ける予定である。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

受講生全員が、授業で予定された箇所の単語を調べ内容を把握し、訳読の準備をする。(1時間～2時間)  
予習内容を授業中に確認し、読解が不十分であった場合は、文法事項を含めて復習する。  
テキスト内の固有名詞は可能な範囲で調べる。発表担当者は他の学生に説明できるよう準備する。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

担当者として訳読発表を行うことが単位取得の必須条件です。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

訳読発表については、授業中に講評を行う。  
学期末レポートはコメントを付して返却する。

## 教科書

L'Image fantôme, Hervé Guibert, Minuit, 1981, 9782707305855

## 参考文献

幻のイメージ, エルヴェ・ギベール, 集英社, 1995, 9784087732368

## 履修上の注意

履修者数に制限(30名)がありますので、初回授業に必ず出席し、履修希望の意思表示をしてください。

講義コード	U360210102	科目ナンバリング	036A403
科目名	フランス語圏文化演習(広域文化)B		
副題	文学の旅 アフリカ・カリブ編		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	中村 隆之		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 5時限 西1-305		

### 授業概要

Lire est voyager. 読むことは旅することだ。そう書いたル・クレジオにならって、この授業では文学を通じた旅に出かけます。私たちの旅の友は、アフリカの詩人ダヴィッド・ジョップです。えっ、だれですか？ 知らなくて当然。というより、詩を読むときにそれがだれが書いたか、ということより、その詩があなたに響くか、が大切。ダヴィッドの詩には、愛、怒り、夢が込められています。今期は、かれの唯一の詩集Coups de pilon(杵つき)を携えて、日本の想像力のなかではいつまでも遠い土地でありつづけるアフリカを旅します。

### 到達目標

フランス語で詩の言葉を味わう知力と感性を磨くこと、この授業で扱うテキストのなかで気に入ったフレーズを暗唱すること、アフリカの広大な文学の領野を一人で旅する力を身につけること、すなわち本を読むことがさらに好きなること。

### 授業内容

実施回	内容
-----	----

- |      |                            |
|------|----------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション                  |
| 第2回  | ダヴィッド・ジョップを学ぶ              |
| 第3回  | 「杵つき」Coups de pilonを読む(1)  |
| 第4回  | 「杵つき」Coups de pilonを読む(2)  |
| 第5回  | 「杵つき」Coups de pilonを読む(3)  |
| 第6回  | 「杵つき」Coups de pilonを読む(4)  |
| 第7回  | 「杵つき」Coups de pilonを読む(5)  |
| 第8回  | 「杵つき」Coups de pilonを読む(6)  |
| 第9回  | 「杵つき」Coups de pilonを読む(7)  |
| 第10回 | 「杵つき」Coups de pilonを読む(8)  |
| 第11回 | 「杵つき」Coups de pilonを読む(9)  |
| 第12回 | 「杵つき」Coups de pilonを読む(10) |
| 第13回 | 「杵つき」Coups de pilonを読む(11) |
| 第14回 | 「杵つき」Coups de pilonを読む(12) |
| 第15回 | 予備日                        |
| 第16回 | 「杵つき」Coups de pilonを読む(13) |
| 第17回 | 「杵つき」Coups de pilonを読む(14) |
| 第18回 | 「杵つき」Coups de pilonを読む(15) |
| 第19回 | アフリカの詩にかんする自由発表(1)         |
| 第20回 | アフリカの詩にかんする自由発表(2)         |
| 第21回 | アフリカの詩にかんする自由発表(3)         |
| 第22回 | アフリカの詩にかんする自由発表(4)         |
| 第23回 | アフリカの詩にかんする自由発表(5)         |
| 第24回 | アフリカの詩にかんする自由発表(6)         |
| 第25回 | アフリカの詩にかんする自由発表(7)         |
| 第26回 | アフリカの詩にかんする自由発表(8)         |
| 第27回 | アフリカの詩にかんする自由発表(9)         |
| 第28回 | アフリカの詩にかんする自由発表(10)        |
| 第29回 | アフリカの詩にかんする自由発表(11)        |
| 第30回 | 予備日                        |

### 授業方法

訳読のスタイルで、ダヴィッド・ジョップの詩を読解していきます。授業ごとに1・2篇の詩をとりあげます。後期には受講者によるアフリカの詩にかんする自由発表を予定します。ときに、暗唱してみたり、ときに、関連する映画を見たり、ときに、その他の詩人の詩に寄り道しながら、旅の終着を目指していきます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

訳読・発表担当者には、訳文・発表作成にあたって下調べをしてもらいます。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	25 %	
レポート	25 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

「中間テスト」は、詩の一部の暗唱かディクテを考えています。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内でフィードバックを行います。

### 教科書

Coups de pilon, David Diop, Presence Africaine

### 参考文献

ダヴィッド・ジョップ詩集:民衆詩叢書,ダヴィッド・ジョップ,夜光社, 2019

### 履修上の注意

履修者数制限(30名)がありますので、第1回目の授業には必ず出席してください。

### その他

アフリカの文化に関心のある人、関心をもちたい人を歓迎します。教師が指命しなくても自由に発言してくれる人を歓迎します。



講義コード	U360210103	科目ナンバリング	036A403
科目名	フランス語圏文化演習(広域文化)C		
副題	第二次世界大戦後のフランス社会及び文化の大衆化		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Integrated Cultural Studies)		
担当者名	飛嶋 隆信		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 1時限 西2-505		

### 授業概要

Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. の講読を通じて、前年度授業で扱った19世紀から両大戦間期に対し、今回は主に第二次世界大戦後のフランスの社会と文化が辿った大衆化の経緯を多角的に検討する。

### 到達目標

学術論文のフランス語を正確に読解し、かつ論文の内容について自分自身の見解を整理して述べられる様にする。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第2回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第3回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第4回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第5回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第6回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第7回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第8回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第9回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第10回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第11回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第12回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第13回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第14回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.14-16 の抜粋講読
第15回	理解度の確認
第16回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
第17回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
第18回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
第19回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
第20回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
第21回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
第22回	Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読

- 第23回 Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
- 第24回 Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
- 第25回 Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
- 第26回 Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
- 第27回 Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
- 第28回 Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
- 第29回 Jean-Pierre Rioux et Jean-François Sirinelli, Histoire culturelle de la France 4, Temps des masses : Le vingtième siècle, Éditions du Seuil, Paris, 1998. のch.17-18 の抜粋講読
- 第30回 理解度の確認

### 授業方法

毎回受講者を指名して、指定された箇所の仏文和訳を行う。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各回の授業前に、必ず辞書を用いて予習をしておくこと。また、今回の授業で扱う内容について、各自調査を行い、出来るだけ予備知識を得ておくこと。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	35 %	
学年末試験(第2学期)	35 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

各回での出席状況、及び授業への取り組み。特に、予習をしてテキストをできる限り理解する努力をしたかどうか評価の基準となる。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

1学期末に実施される試験については、採点の上、2学期初頭に返却する。

### 教科書コメント

使用教材は授業初回時に配布する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

### その他

質問等は授業の前後、もしくはメールにて。詳しくは初回授業時に指示する。

講義コード	U360211101	科目ナンバリング	036A404
科目名	フランス語圏文化演習(文学・思想)A		
副題	ジョルジュ・サンド『アンディヤナ』を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	上杉 誠		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 月曜日 3時限 仏文院生室		

### 授業概要

ジョルジュ・サンドの実質的なデビュー作である長編小説『アンディヤナ』(1832)を取り上げます。不幸な結婚をした女主人公が、夫、恋人、第三の男のあいだで苦しむ姿を描いたこの小説を抜粋で精読しながら、結婚制度批判や田園と都市の表象、エグゼティスムといった主題を読み解いていきます。進度や受講者の関心によっては、田園小説や自伝作品などサンドの他の作品との関連にも注意を払います。

### 到達目標

フランス語の散文を正確に読む能力を身につけること。  
19世紀小説におけるさまざまな主題について理解を深めること。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	序文1
第3回	序文2
第4回	第一部1
第5回	第一部2
第6回	第一部3
第7回	第一部4
第8回	第一部5
第9回	第二部1
第10回	第二部2
第11回	第二部3
第12回	第二部4
第13回	第二部5
第14回	総括
第15回	振り返り
第16回	第三部1
第17回	第三部2
第18回	第三部3
第19回	第三部4
第20回	第三部5
第21回	第四部1
第22回	第四部2
第23回	第四部3
第24回	第四部4
第25回	第四部5
第26回	結部1
第27回	結部2
第28回	関連作品
第29回	まとめ
第30回	振り返り

### 授業計画コメント

以上はあくまで予定です。教室の様子に応じて実際の進め方とは異なる場合があります。

### **授業方法**

演習形式です。初めの数回は講師が担当し、その後は、参加者に訳読と解説をしてもらいます。

### **使用言語**

日本語

### **準備学習(予習・復習)**

授業前にテキストの該当箇所を読み、単語などを調べ、わからない箇所を把握しておいてください(1~2時間)。

### **成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### **課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

訳読中心の授業のため、授業内での訳や発言内容について適宜コメントします。

### **教科書**

Indiana, George Sand, Folio classique, 1984, 9782070376049

### **参考文献**

アンヂアナ, ジョルジュ・サンド, 岩波文庫, 1937, 4003253574

なぜ「ジョルジュ・サンド」と名乗ったのか?, マルティエヌ・リード, 藤原書店, 2014, 9784894349728

### **参考文献コメント**

上記の参考文献も含め、授業中に適宜紹介します。

### **履修上の注意**

履修制限の対象です(30名)。受講希望者は、第一回の授業に必ず出席してください。

講義コード	U360211102	科目ナンバリング	036A404
科目名	フランス語圏文化演習(文学・思想)B		
副題	バタイユの思想を読む		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	福島 勲		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 中央-507		

### 授業概要

本授業では、ジョルジュ・バタイユの思想を手かりにして、人間や芸術、文学の意味について考察する。具体的には、『ドキュマン』、『内的体験』、『呪われた部分』、『ラスコーの壁画』、『エロティシズム』、『文学と悪』、『至高性』等の抜粋(フランス語原文)の輪読をしながら、その内容について参加者によるディスカッションを行う。

### 到達目標

- ・フランス語で書かれたテキストを読解し、その内容を理解することができる。
- ・人間や芸術の役割について、文化的、社会的、哲学的な視点から考えることができる。
- ・科学技術や経済効率とは別の観点から人間や文化を構想することができる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション:バタイユとは?
第2回	イデアリズム批判:『ドキュマン』を読む(1)
第3回	イデアリズム批判:『ドキュマン』を読む(2)
第4回	イデアリズム批判:『ドキュマン』を読む(3)
第5回	イデアリズム批判:『ドキュマン』を読む(4)
第6回	無為と共同体:『内的体験』を読む(1)
第7回	無為と共同体:『内的体験』を読む(2)
第8回	無為と共同体:『内的体験』を読む(3)
第9回	無為と共同体:『内的体験』を読む(4)
第10回	無為と共同体:『内的体験』を読む(5)
第11回	消尽する人間:『呪われた部分』を読む(1)
第12回	消尽する人間:『呪われた部分』を読む(2)
第13回	消尽する人間:『呪われた部分』を読む(3)
第14回	消尽する人間:『呪われた部分』を読む(4)
第15回	前半のまとめ&到達度確認
第16回	前半から後半への導入
第17回	芸術と人間:『ラスコーの壁画』を読む(1)
第18回	芸術と人間:『ラスコーの壁画』を読む(2)
第19回	芸術と人間:『ラスコーの壁画』を読む(3)
第20回	芸術と人間:『ラスコーの壁画』を読む(4)
第21回	性と死:『エロティシズム』を読む(1)
第22回	性と死:『エロティシズム』を読む(2)
第23回	性と死:『エロティシズム』を読む(3)
第24回	性と死:『エロティシズム』を読む(4)
第25回	文学と至高性:『文学と悪』を読む(1)
第26回	文学と至高性:『文学と悪』を読む(2)
第27回	文学と至高性:『文学と悪』を読む(3)
第28回	文学と至高性:『至高性』を読む(1)
第29回	文学と至高性:『至高性』を読む(2)
第30回	一年のまとめ&到達度確認

### 授業計画コメント

授業内容や進度は、参加者の興味・理解度に応じて柔軟に変化する。

### 授業方法

授業は演習方式であり、参加者による輪読・翻訳・発表によって進む。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

各回の予習には90分～120分かかると想定される。また、発表担当回にはさらに60分程度が必要となる。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

レポートは学生の理解度に応じて各学期1～3回課す。平常点においては、積極的参加および発表内容を評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

各レポートにはコメントをつける。

### 教科書コメント

適宜、配布する。

### 参考文献コメント

適宜、指示する。

### 履修上の注意

フランス語テキストの読解が授業の柱となるので、フランス語未履修者は受講できない。  
履修者数制限あり(30名)。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360211103	科目ナンバリング	036A404
科目名	フランス語圏文化演習(文学・思想)C		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	前山 悠		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 水曜日 2時限 南1-204		

### 授業概要

ジョルジュ・ペレック(1936-1982)の小説・自伝・エッセーからいくつか抜粋して講読しつつ、関連する文学・芸術・社会的問題を幅広く考察する。

### 到達目標

フランス語での正確な読解力を養いつつ、主に現代フランス文学に関する理解を深める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	“La Disparition”講読①:文学的規則
第3回	“La Disparition”講読②:メタテキスト
第4回	“La Disparition”講読③:メタテキスト(続き)
第5回	“La Disparition”講読④:諸言語での翻訳
第6回	“La Disparition”講読⑤:まとめ
第7回	“Un Cabinet d’amateur”講読①:文学と絵画
第8回	“Un Cabinet d’amateur”講読②:紋中紋の技法
第9回	“Un Cabinet d’amateur”講読③:紋中紋の技法(続き)
第10回	“Un Cabinet d’amateur”講読④:まとめ
第11回	“La Vie mode d’emploi”講読①:小説の成り立ち
第12回	“La Vie mode d’emploi”講読②:文学史上の位置づけ
第13回	担当者による発表①
第14回	担当者による発表②
第15回	前期のまとめ
第16回	“W ou le souvenir d’enfance”講読①:自伝の問題
第17回	“W ou le souvenir d’enfance”講読②:自伝の問題(続き)
第18回	“W ou le souvenir d’enfance”講読③:自伝の問題(続き)
第19回	“W ou le souvenir d’enfance”講読④:ユダヤ人問題
第20回	“W ou le souvenir d’enfance”講読⑤:ユダヤ人問題(続き)
第21回	“W ou le souvenir d’enfance”講読⑥:ユダヤ人問題(続き)
第22回	“Espèces d’espaces”講読①:「日常」に関する社会学的問題
第23回	“Espèces d’espaces”講読②:「日常」に関する社会学的問題(続き)
第24回	“Espèces d’espaces”講読③:「日常」に関する社会学的問題(続き)
第25回	映像作品を見る①
第26回	映像作品を見る②
第27回	担当者による発表①
第28回	担当者による発表②
第29回	予備日
第30回	後期のまとめ

### 授業方法

講読に並行して周辺知識の解説を加えていく。各学期末に課題に応じて発表を行ってもらう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

次回講読範囲を読んでくる(約1時間)。担当者は訳を作成する。

### 成績評価の方法・基準

評価項目

評価配分(%) 備考

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	レポートは後期授業期間中に提出してもらう。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	授業内での発表。

#### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートはコメントをつけて返却する。

#### 教科書コメント

プリントを配布する。

#### 履修上の注意

履修者数制限あり(30名)。

第一回目の授業に必ず出席すること。



講義コード	U3602111Z1	科目ナンバリング	036A404
科目名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	マルセル・ブルースト研究		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 雅生		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 仏文院生室		

### 授業概要

20世紀文学の頂点とも言われるブルーストの『失われた時を求めて』、この長大な小説の冒頭部「コンプレー」につづく「スワンの恋」を読む。重要な場面を選んで精読しながら、この作家の特徴を理解するとともに、『失われた時を求めて』という小説の全体像を把握することを試みる。

### 到達目標

フランス語の高度なテキストを読み、文化的歴史的背景とともに理解するとともに、自らの言葉で解釈・分析できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	作家および作品についての解説
第3回	オデットとの出会い (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第4回	オデットとの出会い (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第5回	オデットとの出会い (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第6回	ヴァントゥイユのソナタ I (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第7回	ヴァントゥイユのソナタ I (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第8回	ヴァントゥイユのソナタ I (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第9回	恋の発生 (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第10回	恋の発生 (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第11回	恋の発生 (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第12回	カトレア (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第13回	カトレア (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第14回	カトレア (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第15回	まとめ
第16回	後期ガイダンス
第17回	幸せな日々 (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第18回	幸せな日々 (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第19回	幸せな日々 (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第20回	疑惑 (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第21回	疑惑 (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第22回	疑惑 (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第23回	ヴァントゥイユのソナタ II (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第24回	ヴァントゥイユのソナタ II (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第25回	ヴァントゥイユのソナタ II (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第26回	恋の終焉 (1): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第27回	恋の終焉 (2): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第28回	恋の終焉 (3): 担当者によるテキストの精読およびコメント・分析、質疑応答、教員のコメントと解説
第29回	予備日
第30回	まとめ

### 授業計画コメント

授業計画はあくまで予定であり、受講者の関心や授業の進度によって変更する可能性があることは言うまでもない。

### 授業方法

演習形式の授業であるので、大筋を説明した後は、各自にテキストを分担してもらいながら授業を進める。単なる訳読ではなく、担当した箇所での分析やコメントを求め、必要に応じてテキスト外の資料も参照することとなるだろう。最終的には各々の関心のある観点からレポートをまとめてもらう。

## 使用言語

日本語

## 準備学習(予習・復習)

自分の担当範囲はもちろん、各回で進むテキストの部分を下調べすること。

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

上記の割合はあくまで目安である。

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートについては、コメントを付与のうえ返却する。

## 教科書

Un amour de Swann,Proust,Larousse,Petits Classiques,2016

## 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U3602111Z2	科目ナンバリング	036A404
科目名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
副題	La poésie de Raymond Queneau		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	MARE, Thierry		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 3時限 仏文院生室		

### 授業概要

Chacun connaît l'importance du romancier Raymond Queneau (1903-1976) dans la littérature de la seconde moitié du XXème siècle. D'ordinaire, pourtant, c'est plus au romancier qu'on pense, à l'expérimentateur, au co-fondateur de l'OULIPO, voire au satrape du Collège de 'pataphysique ou au membre de l'Académie Goncourt qu'à l'auteur d'une douzaine de livres de poèmes, lesquels récapitulent pourtant toutes ces facettes de l'écrivain.

Nous nous intéresserons donc à cette partie relativement méconnue, sinon pour quelques chansons indémodables ("Si tu t'imagines..."), et tâcherons de l'aborder sous chacun des aspects qui en constituent la richesse.

### 到達目標

Comme toujours, l'essentiel du cours consistera en lectures et en explications de texte, au cours desquels je pourrai aborder des questions plus techniques (de prosodie et de versification) ou plus théoriques (concernant la question des formes et celle de l'adéquation du langage au monde).

### 授業内容

実施回	内容
-----	----

- |      |   |
|------|---|
| 第1回  | Le cours sera divisé en quatre parties. La première s'intitule "Les formes du poème". |
| 第2回  | Les formes du poème 2, questions de prosodie et de versification.                     |
| 第3回  | Les formes du poème 3, questions de prosodie et de versification (suite).             |
| 第4回  | Les formes du poème 4, questions de prosodie et de versification (suite).             |
| 第5回  | Les formes du poème 5, l'invention du nouveau.  |
| 第6回  | Les formes du poème 6, l'invention du nouveau (suite).                                |
| 第7回  | Les formes du poème 7, l'invention du nouveau (suite).                                |
| 第8回  | La parole en poésie 1.  |
| 第9回  | La parole en poésie 2, le néo-français.   |
| 第10回 | La parole en poésie 3, le néo-français (suite).                                       |
| 第11回 | La parole en poésie 4, le néo-français (suite).                                       |
| 第12回 | La parole en poésie 5, poème ou chanson.  |
| 第13回 | La parole en poésie 6, poème ou chanson (suite)                                       |
| 第14回 | La parole en poésie 7, poème ou chanson (suite)                                       |
| 第15回 | Première récapitulation.  |
| 第16回 | La question des genres.   |
| 第17回 | La question des genres, modèle ou parodie.  |
| 第18回 | La question des genres, modèle ou parodie (suite).                                    |
| 第19回 | La question des genres, modèle ou parodie (suite).                                    |
| 第20回 | La question des genres, le classicisme en projet.                                     |
| 第21回 | La question des genres, le classicisme en projet (suite).                             |
| 第22回 | La question des genres, le classicisme en projet (suite).                             |
| 第23回 | Rire ou ne pas rire.  |
| 第24回 | Rire ou ne pas rire (suite).  |
| 第25回 | Rire ou ne pas rire (suite).  |
| 第26回 | Rire ou ne pas rire (suite).  |
| 第27回 | Rire ou ne pas rire (suite).  |
| 第28回 | Rire ou ne pas rire (suite).  |
| 第29回 | Rire ou ne pas rire (suite).  |
| 第30回 | Rira bien qui rira le dernier (deuxième récapitulation).                              |

### 授業方法

Une semaine avant chaque cours, j'indiquerai le texte sur lequel nous travaillerons la fois suivante et, éventuellement, en distribuerai la photocopie.

## 使用言語

1

## 準備学習(予習・復習)

Lire le texte, si possible le comprendre. Eventuellement y réfléchir.

## 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	Ces "rapports" seront en fait des exposés oraux.
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

## 成績評価コメント

Ces exposés, délivrés en français, auront la même forme que le cours lui-même : le commentaire littéraire d'un texte, en l'occurrence un poème ou un extrait de poème que j'aurai préalablement chargé l'étudiant d'expliquer.

## 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

(Cette rubrique est complètement idiote ! A-t-on jamais vu un professeur ne rien dire au moment où il rendait un travail ou reprenait un exposé ?)

## 教科書

Oeuvres complètes 1: Bibliothèque de la Pléiade, Raymond Queneau, Gallimard, 1989, 2-07-011168-7

## 教科書コメント

Je puis difficilement exiger que les étudiants achètent un livre aussi cher ! Aussi procéderons-nous souvent au moyen de photocopies (mais chut ! il ne faut pas le dire !).

## 履修上の注意

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U3602111Z3	科目ナンバリング	036A404
科目名	◇フランス語圏文化演習(文学・思想)		
英文科目名	Seminar in French Language Cultures: (Literature & Theory)		
担当者名	鈴木 啓二		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 3時限 仏文院生室		

## 授業概要

ボードレールの政治性

ボードレールは、1851年12月のクーデタ以後「非政治化」したと言われる。しかし、彼の書簡等を読む限り、彼の政治に対する関心はクーデタ以後も変わらない。

本授業では、いくつかの研究論文を読みながら、ボードレールの作品と、同時代の政治や政治思想との関わりを考察する。あわせて、より一般的な視点から、文学と政治の関係を考える。

扱う予定の論文は以下の通り(講読する論文及び、講読の順序について、変更する可能性がある)。

1. Gretchen van Slyke, 《 Dans l'intertexte de Baudelaire et de Proudhon : pourquoi faut-il assommer les pauvres ? 》, *Romantisme*, 1984, n°45, p.62-70
2. Dominique Dupart, 《 Suffrage universel, suffrage lyrique chez Lamartine , 1834-1848 》, *Romantisme*, 2007, n°135, p. 9-21.
3. Dolf Oehler, 《 Juin 1848 chez Baudelaire et Flaubert - Modernités et massacres 》, in 1848, Créaphis, Paris, 2002, p. 141-158.
4. Michèle Riot-Sarcey, 《 Que reste-t-il de l'esprit de 1848 ? 》 in *Le procès de la liberté*, Paris, La Découverte, 2016, ch.III, 10.
5. Steve Murphy, 《 Assomons les pauvres ! Le démon du combat 》, *Logiques du dernier Baudelaire*, Champion, 2007, ch. XIII, p.393-432.
6. Bernard Howells, 《 Baudelaire et Giuseppe Ferrari: histoire et dandysme 》, *Etudes baudelairiennes XII*, Neuchâtel, La Baconnière, 1987, p. 99-130.

授業では、随時、学生による研究発表も行う。

## 到達目標

各人の関心に従って、文学と政治の関係についての意識を明確化する

## 授業内容

実施回	内容
第1回	学期全体についての説明
第2回	ボードレールとプルードン1
第3回	ボードレールとプルードン2
第4回	ボードレールとプルードン3
第5回	ボードレールとプルードン4
第6回	学生による研究発表 第一回
第7回	ラマルティエヌと2月革命1
第8回	ラマルティエヌと2月革命2
第9回	ラマルティエヌと2月革命3
第10回	ラマルティエヌと2月革命4
第11回	学生による研究発表 第二回
第12回	文学者と6月蜂起1
第13回	文学者と6月蜂起2
第14回	授業の総括
第15回	到達度確認
第16回	学期全体についての説明
第17回	1851年12月のクーデタと文学者たち1
第18回	1851年12月のクーデタと文学者たち2
第19回	1851年12月のクーデタと文学者たち3
第20回	1851年12月のクーデタと文学者たち4
第21回	学生による研究発表 第三回
第22回	散文詩「貧民を撲り倒そう！」読解1
第23回	散文詩「貧民を撲り倒そう！」読解2
第24回	散文詩「貧民を撲り倒そう！」読解3
第25回	散文詩「貧民を撲り倒そう！」読解4
第26回	学生による研究発表 第四回
第27回	ボードレールとジュゼッペ・フェラーリ1
第28回	ボードレールとジュゼッペ・フェラーリ2
第29回	授業の総括

**授業方法**

講義、テキスト講読、学生による研究発表

**使用言語**

日本語

**準備学習(予習・復習)**

講読するテキストは事前に読んでおくこと。準備に際してはフランス語の辞書(Grand Robert, TLFなど)にもあたること。

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		受講者多数で発表の機会が与えられなかった場合にレポートによって評価することがある
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	講読の担当、あるいは研究内容の発表
その他(備考欄を参照)		

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

授業中に、発表に対するコメントの形で行う

**教科書コメント**

教材は、各学期一回目の授業で頒布する

**履修上の注意**

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360300101	科目ナンバリング	036B405
科目名	論文指導演習A		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第1学期 火曜日 5時限 北1-306		

### 授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。

### 到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、卒業論文などを執筆できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献を探す
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える
第10回	引用及び注について学ぶ
第11回	序論及び結論の書き方を学ぶ
第12回	フランス語の文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第13回	フランス語の要旨の書き方を学ぶ
第14回	総括
第15回	自主研究

### 授業方法

各回の授業の内容に即して具体的な例をあげながら説明をおこない、内容に沿ったレポート課題を複数回出す。提出されたレポートをもとに、補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

配布する資料やプリントは次の授業までに読んで内容を理解しておくこと。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

試験は実施せず、複数回のレポート課題及び授業中の応答から総合的に判断して評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却し、授業内で説明を行う、もしくは個人的にアドバイスを与える。

### 教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

### 参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修できるのは、主に卒業論文、卒業翻訳、卒業演習を履修する資格がある4年生の学生。「論文指導演習B」との重複履修は不可。また平成26年度以前に「論文指導演習(4単位)」の単位を修得した者の履修は認めない。

#### その他

メールにWord文書を添付する形でレポートを提出してもらうので、各自PC環境を整えておくこと。



講義コード	U360300102	科目ナンバリング	036B405
科目名	論文指導演習B		
英文科目名	Practice in thesis writing		
担当者名	横川 晶子		
単位	2	配当年次	学部 3年～4年
時間割	第2学期 火曜日 5時限 北1-306		

### 授業概要

4年次に制作する卒業論文の準備段階として、論理的な文章の書き方や論文の形式、作成方法を実践的に学ぶ。

### 到達目標

論文作成に必要な知識と技術を習得し、卒業論文などを執筆できるようになる。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業の内容及び授業の進め方についての説明
第2回	日本語の表記に関する基本的な注意事項を学ぶ
第3回	論理的な文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第4回	論理的な文章を要約する
第5回	論文のテーマを選ぶ
第6回	参考文献を探す
第7回	参考文献目録の書き方を学ぶ
第8回	テキスト批評の方法を学ぶ
第9回	論文の構成を考える
第10回	引用及び注について学ぶ
第11回	序論及び結論の書き方を学ぶ
第12回	フランス語の文章の書き方に関する基本的な事柄を学ぶ
第13回	フランス語の要旨の書き方を学ぶ
第14回	総括
第15回	自主研究

### 授業方法

各回の授業の内容に即して具体的な例をあげながら説明をおこない、内容に沿ったレポート課題を複数回出す。提出されたレポートをもとに、補足説明や個人的なアドバイスをおこなう。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

配布する資料やプリントは次の授業までに読んで内容を理解しておくこと。授業期間中に複数回レポート課題を出すので、締切日までに提出すること。(2～3時間)

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

試験は実施せず、複数回のレポート課題及び授業中の応答から総合的に判断して評価する。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートはコメントを付与して返却し、授業内で説明を行う、もしくは個人的にアドバイスを与える。

### 教科書コメント

授業中に随時プリントを配布する。

### 参考文献コメント

必要に応じて授業中に指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。

履修できるのは、主に3年生の学生。「論文指導演習A」との重複履修は不可。また平成26年度以前に「論文指導演習(4単位)」の単位を修得した者の履修は認めない。

#### その他

メールにWord文書を添付する形でレポートを提出してもらうので、各自PC環境を整えておくこと。

講義コード	U360302101	科目ナンバリング	036B406
科目名	文献調査演習		
副題	卒業論文を提出しない学生にも開かれた授業		
英文科目名	Research and Documentation		
担当者名	CARTON, Martine		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 火曜日 1時限 中央-506		

### 授業概要

卒業論文を提出しない学生にも開かれた授業です。卒業論文として提出しないで、3-4年生の研究論文をまとめようと思う学生も歓迎します。論文のテーマの設定、論文の構成法、論文に必要な情報を収集する方法を学び、最後に、発表のパワーポイントと発表のレジユメをつくります。

### 到達目標

研究のテーマを決めること、インターネットで情報を収集すること、レジユメをつくること、最後にクラスでパワーポイントで発表すること

### 授業内容

実施回	内容
第1回	授業の説明と参加する学生による自分のテーマの紹介
第2回	Choix du sujet de recherches
第3回	Choix du sujet de recherches
第4回	Choix du sujet de recherches
第5回	Recherches de documents
第6回	Recherches de documents
第7回	Rédaction de la bibliographie
第8回	Rédaction de la bibliographie
第9回	Rédaction d'une fiche de lecture
第10回	Rédaction d'une fiche de lecture
第11回	Rédaction d'une fiche de lecture
第12回	Présentation du livre à la classe
第13回	Présentation du livre à la classe
第14回	まとめ
第15回	自主研究
第16回	Choix du sujet de la présentation orale
第17回	Choix du sujet de la présentation orale
第18回	Rédaction de la présentation orale : texte et power point
第19回	Rédaction de la présentation orale : texte et power point
第20回	Rédaction de la présentation orale : texte et power point
第21回	Rédaction de la présentation orale : texte et power point
第22回	Rédaction de la présentation orale : texte et power point
第23回	Présentation orale
第24回	Présentation orale
第25回	Présentation orale
第26回	Présentation orale
第27回	Présentation orale
第28回	Présentation orale
第29回	Préparation du résumé de la présentation orale
第30回	自主研究

### 授業方法

Chaque étudiant travaillera sur son propre sujet et fera une présentation de son travail à la classe

### 使用言語

**準備学習(予習・復習)**

Préparation de 20-30 minutes avant chaque cours.

**成績評価の方法・基準**

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	
小テスト	20 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

**成績評価コメント**

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):20% :Fiche de lecture, présentation orale:80%

**課題(試験やレポート等)に対するフィードバック**

Les exercices seront corrigés et rendus aux étudiants, les présentations orales seront corrigées et notées à l'oral.

**履修上の注意**

履修者数制限あり。(20名)  
第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360303101	科目ナンバリング	036B104
科目名	フランス語実習A		
副題	TCF受験に向けて:基礎から実践へ		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	大野 麻奈子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西2-406		

### 授業概要

フランス語能力試験TCF (Test de Connaissance du Français)対策を通じてフランス語力を伸ばすことを目指す授業。  
TCFの試験はcompréhension écrite/ compréhension orale/ structure de la langueという3つの部分から成るが、今年度は聴解力の養成を特に目指す。基礎的な問題演習を繰り返すほか、フランスのテレビニュースなどを視聴して理解することに挑戦するなどの実践的な演習も行う予定。

### 到達目標

- ・TCFのレベルB2程度(またはそれ以上)の聴き取り力:短い日常会話や街の中で耳にするアナウンスなどを理解し、ラジオ・TVなどのゆっくりめで比較的短いニュースや特集などの内容もほぼ把握することができる力。
- ・話されている内容を理解するために必要な知識・教養を深める。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	TCFについておよび授業の説明。
第2回	TCFの模試を授業内で取り組み、試験の傾向の理解に努める。
第3回	以降、問題演習に実践的な演習を交えての授業を行う。
第4回	TCF直前の回には1回分の授業を使って模試を行う。
第5回	模試の後には答え合わせと解説を中心とした授業を行う。
第6回	第一回TCFの直後には、試験振り返りを行う。各受験者の感想をふまえて、以降の授業内容も修正する可能性がある。
第7回	後期も、前期と同様、基礎的な問題演習に実践的な演習を交えての授業をする。
第8回	まとめ
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業計画コメント

授業計画については受講者のフランス語能力などによって変更する可能性もある。

### 授業方法

聴解力を高めるための視聴覚教材を毎回使用する予定。また、授業においては可能な限り多くの受講者に音読や発言の機会を作る。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

聴き取りについては、週1回の授業では到底間に合わず、力をつけることはできない。文法力、読解力をつけることによって聴き取り能力もある程度は伸びるが、やはり毎日、できる限り多くの聴覚資料を耳にすることは必要不可欠である。TCF対策CDなど、教員が準備して配布する資料を毎日聞き続けることを推奨する。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)	40 %	TCF(受験回数、点数の伸びなどを考慮)

### 成績評価コメント

TCFは6月と12月(時期に多少の変動性はあるが)に本学を会場とした試験が行われる予定であるが、そのうち最低限1回は必ず受験することが受講の前提となっている。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

TCFの結果は、3項目のバランス等を見て解説をする。

### 教科書コメント

授業時に指示する。

### 履修上の注意

履修者数制限あり。

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	U360303102	科目ナンバリング	036B104
科目名	フランス語実習B		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	一丸 禎子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 木曜日 4時限 中央-503		

### 授業概要

フランス語の「聞く」力を訓練します。1～2年生でフランス語の基礎を学びますが、次の段階ではコミュニケーションの場において「相手の言葉を聞く」力が必要になります。これはたくさん音源を聴けば身につくように思われますが、量だけの問題ではありません。フランス語の言葉を聞き取るにはどのようなことに気をつければ良いのか、実際に自然な状態で録音されたものを聴きながら聞く力を身につけていきます。

### 到達目標

目標はふたつあります。聞き取る力の向上を目指すと同時に、聞き取る力を向上させるために必要な勉強方法も身につけるようにします。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	さあ、聞いてみよう(自分はどれくらい聞き取れるのかまず最初に調べてみましょう)
第2回	フランス語のコミュニケーションにおける聞き取りのコツを身につけるには(考えてみよう)
第3回	空港で
第4回	列車の中で
第5回	出生地
第6回	市場で
第7回	駅で
第8回	本屋さん
第9回	応答電話
第10回	旅行代理店で
第11回	セザール賞
第12回	診察室で
第13回	外国語教育
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り
第16回	警察で
第17回	アパルトマン
第18回	台所で
第19回	銀行で
第20回	スリズィ＝ラ＝サル
第21回	天気予報
第22回	パーティー
第23回	地方局から中継
第24回	ランスの大聖堂
第25回	エミール・ベルナール
第26回	文学セミナー1
第27回	文学セミナー2
第28回	文学セミナー3
第29回	理解度の確認
第30回	振り返り

### 授業計画コメント

予習・復習など授業時間以外にも自習が必要です。

### 授業方法

アトリエ形式。皆で一緒に音源を聴き、内容に関する設問に答えます。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

課題にはふた通りあります。まず音読、そして音源を聞いて書き取るなどです。毎日最低1時間必要です。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	40 %	

### 成績評価コメント

積極的に課題や授業に取り組んでいるか、そして試験の結果を見て総合的に判断します。  
年に2回行われるTCF試験のうち、1回は必ず受験すること。

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

都度授業内でコメントを行う。

### 教科書コメント

教室でプリントと音源を配布します。

### 参考文献

フランス語ホームステイライブ, 一丸禎子, P・レボラル, 三修社, 1, 2011, 978-4-384-05666-2C1085

### 履修上の注意

こまめな努力を継続することが必要とされます。  
履修者数制限あり。第1回目の授業に必ず出席のこと。



講義コード	U360303103	科目ナンバリング	036B104
科目名	フランス語実習C		
副題	TCF 試験準備実習		
英文科目名	Practice in the French language		
担当者名	川口 覚子		
単位	4	配当年次	学部 3年～4年
時間割	通年 金曜日 4時限 西1-108		

### 授業概要

TCF(フランス語能力試験)の受験を目指しながら、フランス語の能力を総合的にのばすことを目指す授業です。受講者は全員、TCFを今年度中に少なくとも一回は受験するということが前提となっています。学習院大学では、年二回のTCF試験を行っています。(受験料補助あり。)

TCFの試験は、1.聞き取り 2.フランス語の構造、3.短いテキストの理解力の三部構成からなっています。

この授業を受講される学生は、2年以上のフランス語学習経験のある人が対象となっており、聞き取り、文法力、読解力の側面が要求されます。

### 到達目標

TCF試験対策用の問題を参考にしながら、傾向をつかめるようにします。文法、語彙力に加え、ヒヤリング力をアップする。

### 授業内容

実施回	内容
第1回	TCF試験の対策を踏まえながら授業を進めていきます。授業内容は聞き取り、穴埋め問題、読解テキストを交互に行っていく予定です。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

### 授業方法

TCF試験に向けた聞きとり練習(簡単な会話を聞き取って、聞こえたままを発音してみる)。さらに、その聞き取ったものを文字にしてみる練習もしていただきます。毎回、一回以上は学生に答えていただくことになるでしょう。聞き取りに関しては、完璧に答えられるに越したことはないですが、意味や構文が分からなくても、まずは音をひろって聞こえたとおりに積極的に答えてみてください。

### 使用言語

日本語

### 準備学習(予習・復習)

ほぼ毎回1度限りの練習なので、学習した単語や表現を復習してください。課題が出る場合もあります。

### 成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	
学年末試験(第2学期)	40 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

### 成績評価コメント

評価配分はあくまでも参考程度であり、平常点などを加味し、総合的に評価します。TCF試験を最低一回受けること。(年に二回あります)

### 課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

試験は実施後に採点して返却します。

### 教科書コメント

そのつどプリントを配布します。

**履修上の注意**

履修者数制限あり。  
第1回目の授業に必ず出席のこと。